



2026年版 営農カレンダー



甲賀地域農業センター

2025	日	月	火	水	木	金	土
12		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

令和8年
2026

1

月 睦 月
(むつき)

2026	日	月	火	水	木	金	土
2	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28

予 定 と 記 録		
1	木	元日
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	小寒
6	火	
7	水	七草
8	木	
9	金	
10	土	
11	日	
12	月	成人の日
13	火	
14	水	

甲賀地域の米づくり重点方針

◆特別栽培米の作付けによる販路拡大

「滋賀県環境こだわり農産物栽培基準」に基づいた安全・安心な米づくりを基本とした、良食味米生産の取り組みを推進しています。

◆良食味「特A」を目指そう

- ①基本技術（良食味米生産のポイント）を励行しよう。
- ②土壌診断および食味測定を実施し、自己の数値を確認しよう（土壌診断および食味測定についてはJA米穀販売課または営農経済センターが窓口です）。

◆高温による品質低下対策の実践

- ①1等米の安定生産に向け、茎数や籾数を適正に抑え、高温登熟による白未熟粒の発生を軽減するため、コシヒカリ、キヌヒカリは5月10日～20日に植え付けましょう（但し、中山間地は除く）。
- ②高温に強い早生品種「みずかがみ」の作付けを拡大しよう。

◆良食味米生産のポイント

- ①土壌診断を実施し土づくり資材を適量施用しましょう。
- ②秋耕を作土深15cm以上になるよう深耕しましょう。
- ③施肥は適時・適量を施用しましょう。
- ④早めの溝切りと中干しを実施し穂数を制限しましょう。
- ⑤出穂前後各3週間は常時湛水しましょう。
- ⑥適期収穫を心掛けましょう（早刈りは食味低下、刈遅れは胴割れや茶米が発生します）。

甲賀地域の水田の有効利用に向けた方針

◆売れる麦・大豆を生産しよう。

- ①契約に基づき、確実な作付けに努めよう。
- ②適期に播種しましょう（麦11月5日～11月15日、大豆6月25日～7月15日）。
- ③排水対策の徹底に努めよう。
- ④後期追肥技術の実施により麦のタンパク向上を図ろう。

◆畑・水田を有効利用し園芸品目の生産拡大を図ろう。

◆非主食用米（加工用米・飼料用米）を生産しよう。

15	木	
16	金	
17	土	土用
18	日	
19	月	
20	火	大寒
21	水	
22	木	
23	金	
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	
30	金	
31	土	甲賀地域農業者のつどい

環境こだわり農産物認証制度について

1. 「環境こだわり農産物認証制度」とは

- ①化学合成農薬および化学肥料の使用量を慣行の半分以下に削減するとともに、濁水の流出防止など、琵琶湖をはじめとする環境への負荷を削減する技術で生産された農産物を、県が「環境こだわり農産物」として認証する制度です。
- ②認証された農産物には、県の認証マークを表示できます。



2. どのようなことをすればいいの？

- ①農薬と化学肥料を慣行の半分以下に減らして栽培します。
化学合成農薬および化学肥料の使用量の基準（例）

農作物名	作型等	環境こだわり農産物の基準（上限）	
		化学合成農薬 (延べ使用成分数)	化学肥料 (窒素成分量kg/10a)
水稻		7	4
にんじん		4	12
なす	露地	15	29
いちじく		6	7
茶		8	27

※上記農作物・作型等以外にも多数の品目で環境こだわり栽培に取り組みます。

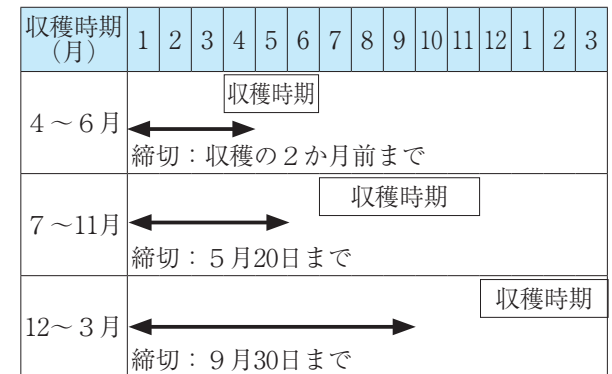
- ②琵琶湖や周辺環境に配慮した栽培を行ってください。
 - ・水稻では水田から濁水が流れないようにしてください。
 - ・農薬を使う場合は周辺環境に配慮して適正に使用してください。
- ③1ほ場につき1枚、必ず看板を設置してください（ほ場確認を行います）。

3. 申請について

- ①生産者・ほ場一覧表の提出（紙の書類だけでなく、データで提出することができます。）

- (ア)提出先：県農産普及課
(イ)提出書類：・生産者・ほ場一覧表
・ほ場の位置図
(ウ)提出の時期

収穫時期	農作物	提出時期（毎年）
4月～6月	茶、野菜など	収穫開始 2か月前まで
7月～11月	水稻、大豆など	1月～5月20日まで
12月～3月	野菜など	1月～9月30日まで



※こまつな、ほうれんそうなどを周年で栽培する場合には、最初に該当する受付時期に、1年分をまとめて提出することができます。

- ②認証の申請：水稻は収穫開始予定の25日前まで、水稻以外は収穫開始予定の15日前までに、認証申請書と生産記録を県農産普及課に提出して、農産物の認証を受けます。

2026	日	月	火	水	木	金	土
1					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

令和8年
2026

2

月 如 月
(きさらぎ)

2026	日	月	火	水	木	金	土
3	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

予 定 と 記 録		
1	日	
2	月	
3	火	節分
4	水	立春
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	
11	水	建国記念の日
12	木	
13	金	
14	土	

農薬適正使用

- ①農薬容器に表示してある作物名、希釈倍数、散布量、有効期限、使用時期や回数等を守って正しく使用する。
- ②本カレンダーに記載した農薬の内容は、令和7年8月31日現在の内容であり、農薬の使用前にはラベルの表示により、必ず登録内容を確認してください(46頁参照)。

麦の管理

・穂肥を2月上中旬に施用し、増収を目指しましょう。(39頁参照)

茶の管理

・春肥1回目施用…有機配合肥料を主体(2月下旬～3月上旬)

家畜堆肥の活用

堆肥供給農家リスト

氏名、名称	住 所	畜種	備 考
中村牧場 中村 総太	水口町山(赤禿) 3708 携帯 090-1602-9459 Fax 63-2345	乳牛	バラ(原則引取・配達可能) 袋(自分で袋詰) 100%牛糞堆肥
甲南堆肥生産利用組合 メインセンター(有)成田牧場 成田 牧彦 サブセンター 岡崎牧場 岡崎 充志	甲南町新治 696 TEL 86-3341 Fax 86-3092 甲南町柑子 1354 TEL・Fax 86-4406 携帯 090-9044-6779	乳牛 (肉牛)	袋(30kg) 顆粒状堆肥30kg(成田牧場のみ) バラ(配達可能)
山田牧場 山田 保高	信楽町神山 2077 TEL 82-2007 Fax 82-1687	乳牛	袋(15kg) バラ(配達、散布可能) 乳酸菌入り
(株)安田養鶏場 土山農場	土山町大野(布引) 283-7 TEL・Fax 67-1275 担当:安田直己:090-3621-3774	鶏	袋(自分で袋詰) バラ(原則引取)

15	日	
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	雨水
20	金	
21	土	
22	日	
23	月	天皇誕生日
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	

(株)チャレンジファーム 黄瀬昇	湖南市針 1380 TEL・Fax 72-4700 担当:黄瀬昇:携帯 090-5016-3450	鶏	バラ(原則引取)、 袋(自分で袋詰)袋有り 100%鶏糞発酵完熟堆肥
---------------------	---	---	--

注意

- ・取引については、当事者同士で責任を持って行ってください。
- ・上記堆肥についての問い合わせは、直接畜産農家へお願いします。
- ・供給条件等は、令和7年9月現在です。

牛ふん堆肥施用量の目安

作物	単位	施用量	方法
水 稻	10 a 当り	1 ~ 2 t	全面散布して鋤き込む
小 麦	10 a 当り	1 ~ 2 t	全面散布して鋤き込む
飼料作物 トモロコシ・ソルガム・エン麦 イタリアンライグラス 稲WCS	10 a 当り	3 ~ 4 t 3 t 2 t	全面散布して鋤き込む
茶 (成木)	10 a 当り	単年 3 t ※10年以上連年施用 する場合は1~2t	8月頃にうね間散布して 鋤き込む
果 樹	成園10 a 当り	2 t	全面散布して軽く鋤き込む
野菜類	1 m ² 当り	1 ~ 2 kg	全面散布して鋤き込む
花卉類	1 m ² 当り プランター	1 kg 0.1kg	全面散布して鋤き込む 古い土と混合して再生させる
植 木	1 m ² 当り	1 kg	株元に散布する

発酵鶏ふん施用量の目安

作物	単位	施用量	方法
水 稻	10 a 当り	100kg	全面散布して鋤き込む
野 菜 (露地)	1 m ² 当り	0.2 ~ 0.3kg	全面散布して鋤き込む

※施用量はあくまでも目安です。土質等で肥効に差が出ることがあります。

※散布後はできるだけ早く鋤き込んでください。

2026	日	月	火	水	木	金	土
2	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28

令和8年
2026

3

月 弥 生
(や よ い)

2026	日	月	火	水	木	金	土
4				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

予 定 と 記 録		
1	日	
2	月	
3	火	ひな祭り
4	水	
5	木	啓蟄
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	

稲作の管理

●育苗の準備

肥料・立枯病予防剤の混和 育苗手順を参照（31頁参照）
種子消毒・浸種

麦の管理

●排水対策を行い、麦の増収・品質向上を!!

・湿害を受けないように今一度、排水溝の土をさらえましょう。

茶の管理

- ①春肥2回目施用…有機配合肥料を主体（2月下旬～3月中旬）
- ②春整枝…一番茶の母枝となる枝に葉が二枚残るように、前年二番茶後の整枝面から5cm上を目安に行いましょう。
- ③カンザワハダニの防除
- ④防霜対策
防霜ファン、被覆資材、スプリンクラー等の点検・試運転を実施してください。

じゃがいもの作付け

栽培ポイント

種芋は購入して無病なもので対応します。

① ほ場の準備

- ・春じゃがいもと秋じゃがいもは連続して同じほ場に植え付けません。
- ・堆肥100kg/a、緩効性肥料10kg/aを施用します。
土をアルカリ性にすると「そうか病」が発生しやすいので、石灰を使用しないか、他の野菜より少なめに施します。

② 植え付け

新芽は霜に弱いので、萌芽時に霜の心配がなくなる3月中旬から下

15	日	
16	月	
17	火	彼岸
18	水	
19	木	
20	金	春分 春分の日
21	土	
22	日	
23	月	
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	

野菜のたねまきと植え付け時期

上旬 ほうれんそう
中旬 にんじん、じゃがいも

旬に植え付けをします。種芋を1片30g程度に切り分け、うね幅70～75cm、株間25～30cm、1条植えて種芋を植え付けます。

③ 管理

芽かきは、草丈が10cmほどになったら、勢いの良い芽を2～3本残して他はかき取ります。芽が15cmくらい伸びた頃とその10日後位に土寄せを行います。追肥は土寄せと同時にそれぞれ化成肥料3kg/a程度施します。

☆土づくりをしましょう。

堆肥や緑肥等有機物資材の投入

☆化学肥料の量を減らしましょう。

局所施肥・肥効調節型肥料・有機質肥料等の使用

☆化学合成農薬の使用量を減らしましょう。

温湯種子消毒・機械除草・生物農薬等の使用

環境にやさしい
農業を实践しましょう!

消費者への信頼確保のため、
生産履歴の記帳・GAPシートによる点検記帳は必須です。

農産物を出荷される時は必ず施肥・播種・防除・収穫等の作業日や、使用した農薬名・肥料名を「生産履歴書」に記入し、提出しましょう。

なお、米については「米トレーサビリティ法」により、生産者は取引等の記録作成と3年間の保存が必要です。一般消費者に米・米加工品を直接販売・提供する場合、産地情報の伝達も必要となります。

記帳の主なメリット

- ・安全な農産物を求める消費者の声に応えることができます。
- ・取組をPRすることにより、産地の評判がさらに高まります。
- ・記録をもとに、農作業の改善を行ってコスト低減や品質向上が図れます。
- ・問題発生時の速やかな原因特定と回収が可能となります。

2026	日	月	火	水	木	金	土
3	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

令和8年
2026

4月 卯月
(うづき)

2026	日	月	火	水	木	金	土
5						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24 31	25	26	27	28	29	30

予 定 と 記 録		
1	水	
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	清明
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	

春の農作業安全月間

●農機具を安全に使用するため、点検整備は入念にしましょう。

●道路に泥を落とさないようにしましょう。

農作業後、道路に出る前に農業機械に付いた泥は落としましょう。道路に落ちた泥は交通事故の原因となる場合もあり、大変危険です。速やかに除去しましょう。

●農機具や防霜ファンの電線等の盗難に注意しましょう！

稲作の管理

●育苗の作業 (31頁参照)

●基肥施用基準 (32頁～38頁参照)

●農業排水対策

①基肥は、水を入れる前に土とよく混ぜましょう。

②代かきは浅水で行い、濁った水を流さないようにしましょう。

③尻水戸は、しっかり止めて、畦塗りや畦シートにより水田からの水漏れを防止しましょう。

④田植え前の濁った水は流さないようにしましょう。

⑤かけ流しかんがいはやめて、水を大切に使いましょう。

茶の管理

①芽出し肥の施用

摘採予定日の3～4週間前に速効性肥料を施用し、また色付肥として苦土入肥料を積極的に施用してください。

②病虫害防除

ツマグロアオカスミカメの常発地は開葉期に防除。チャノホソガ、カンザワハダニは発生に注意し、適期防除に努めましょう。

③防霜対策

防霜ファンの始動開始温度は、萌芽期前に2～3℃とし、段階的に設定温度を上げましょう。

④被覆資材

・かぶせ茶の被覆は、1.5～2.0葉期に行いましょう。

・直がけ被覆の場合は、資材をしっかり固定してください。

15	水	
16	木	
17	金	土用
18	土	
19	日	
20	月	穀雨
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	昭和の日
30	木	

野菜のたねまき時期

上旬 ほうれんそう、こまつな
 中旬 ごぼう、にら
 下旬 かぼちゃ、しろうり、だいこん、かんぴょう

夏野菜の管理(トマト・なす・きゅうり・かぼちゃ)

1. ほ場の準備

トマトやなすは、連作障害が出ないようにほ場を選びます。やむを得ない場合は接ぎ木苗を利用するとよいでしょう。

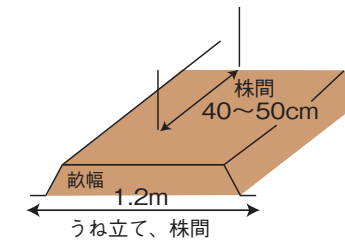
石灰とようりんは植え付けの2週間前、その他の化成肥料は植え付けの1週間前までに施用し、土とよく混ぜ合わせておきます。

2. 植え付け

植え付けは霜の心配がなくなる5月上～中旬に行います。4月中に植え付けする場合はトンネルなどの準備を行う必要があります。

① トマト (g/m²)

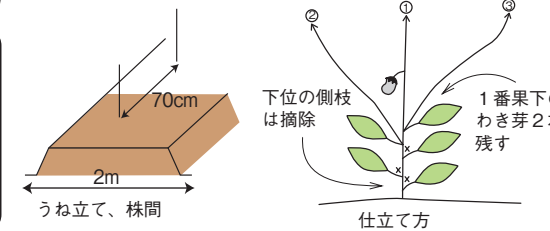
肥料名	基肥	追肥 (一回当たり)
苦土石灰	150	
BMようりん	60	
緩効性肥料	50	
高度化成		10



* 追肥は1番果がピンポン玉大になれば化成肥料を1株当たり10g程度施します。以後、各花房がピンポン玉の大きさになれば同様に追肥します。

② なす (g/m²)

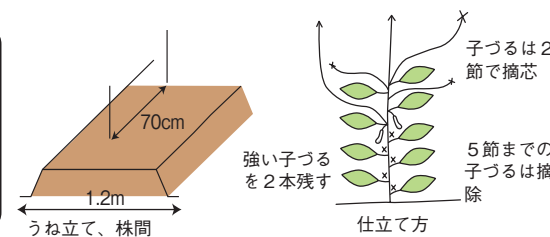
肥料名	基肥	追肥 (一回当たり)
苦土石灰	100	
BMようりん	50	
緩効性肥料	100	
高度化成		20



* 追肥は収穫し始めたら2週間ごとに化成肥料を1株当りに20g程度施します。追肥後は水を多めにかん水します。

③ きゅうり (g/m²)

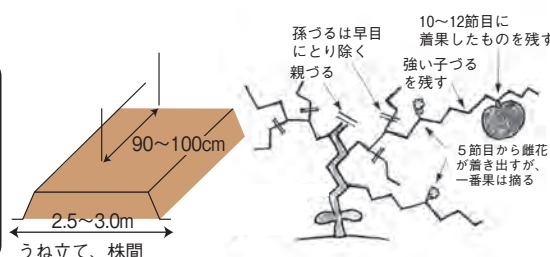
肥料名	基肥	追肥 (一回当たり)
苦土石灰	100	
BMようりん	50	
緩効性肥料	100	
高度化成		20



* 追肥は収穫が始まったら2週間ごとに化成肥料を1株当り20g程度施します。

④ かぼちゃ (g/m²)

肥料名	基肥	追肥 (一回当たり)
苦土石灰	100	
BMようりん	20	
緩効性肥料	50	
高度化成		30



* 追肥はつるが40～50cm伸びた頃と1番果を確認した頃に1m²当たり30gをつる先に施します。

* 追肥は1回当たりの施用量

2026	日	月	火	水	木	金	土
4				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

令和8年
2026

5 月 阜 月
(さ つ き)

2026	日	月	火	水	木	金	土
6		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				

予 定 と 記 録		
1	金	
2	土	八十八夜
3	日	憲法記念日
4	月	みどりの日
5	火	立夏 こどもの日
6	水	振替休日
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	母の日
11	月	
12	火	
13	水	
14	木	

春の農作業安全月間

- 農業排水対策強化期間
- こまめに除草を行い、周辺環境に配慮しましょう！

稲作の管理

主な除草剤の散布量

	剤の種類	農 薬 名	10 a 当り散布量	成分数	
初期剤	フロアブル剤	ピラクロンフロアブル	500ml	1	農薬は、使用前にラベルを十分に熟読し、対象作物、使用量(濃度)、使用時期・回数等を確認した上で使用しましょう。
	1 kg粒剤	ピラクロン1キロ粒剤	1 kg	1	
初・中期一発処理剤	フロアブル剤	アットウZフロアブル	500ml	3	
		アカツキフロアブル	500ml	3	
		キマリテフロアブル	500ml	2	
	ジャンボ剤	アットウZジャンボ	小包装(パック) 10個 400g	3	
		アカツキジャンボ	小包装(パック) 10個 250g	3	
		キマリテジャンボ	小包装(パック) 10個 300g	2	
	1 kg粒剤	アットウZ 1キロ粒剤	1 kg	3	
		アカツキ1キロ粒剤	1 kg	3	
		キマリテ1キロ粒剤	1 kg	2	
3 kg粒剤	クサトッタ粒剤	3 kg	4		
中期剤	3 kg粒剤	ザーベックスSM粒剤	3 kg	3	
	1 kg粒剤	クリンチャー 1キロ粒剤	1 kg	1	
		ウィードコア 1キロ粒剤	1 kg	3	
	ジャンボ剤	クリンチャージャンボ	小包装(パック) 20個 1 kg	1	
		セカンドショットSジャンボMX	小包装(パック) 20個 500g	3	
	乳剤	クリンチャー EW	100mlを 水25~100Lに希釈	1	

15	金	
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	
20	水	
21	木	小満
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	
31	日	

野菜のたねまきと植え付け時期

上旬 スイートコーン、いんげん、さといも、とうがん、トマト
 中旬 えだまめ、きゅうり、なす、ししとう、すいか
 下旬 オクラ、ササゲ、パセリ、しそ、ピーマン、とうがらし

	剤の種類	農薬名	10a当り散布量	成分数	
中・後期剤	3kg粒剤	バサグラン粒剤	3～4kg	1	農薬は、使用前にラベルを十分に熟読し、対象作物、使用量(濃度)、使用時期・回数等を確認した上で使用しましょう。
	液剤	バサグラン液剤	500～700mlを水70～100Lに希釈	1	

●田植の時の注意点

- ①雨や風の強い日は田植をしない。
- ②1株3～4本の細植にする(栽植密度50～60株/坪)。
- ③活着するまで(田植後2～3日)は深水状態にする。

●病害虫の防除

- ①置き苗は葉いもちの発生源になるので、5月末までに除去する(5%までの欠株は収量に影響ありません)
- ②いもち病・イネミズゾウムシ・ニカメイチュウ
常発地は稲名人箱粒剤(50g/箱)を田植時に必ず箱施用してください。

●除草剤の上手な使い方

最近では除草剤の種類も多く出回っていますが、自分の田の雑草をよく調べ、雑草の種類にあった除草剤の選定が大切です。

- ①ほ場を均平にし適切な水管理を行う(散布後一週間ぐらひは水をうごかさない)。
- ②散布時期を守る。
- ③散布量を守りムラなくまく。

麦の管理

・赤かび病の薬剤散布は、1回目は開花始め～開花期、2回目は1回目散布の7～10日後に実施します。多発が予想される場合は、3回目の防除が必要です。

茶の管理 摘採・製造時の異物混入をなくしましょう

- ①一番茶摘採 刈り遅れないよう適期に実施しましょう。
- ②夏肥の施用 一番茶摘採後、早期に施用しましょう。
- ③中切り、深刈り更新 樹高が高くなった茶園では、中切り、深刈りを行いましょ(一番茶後なるべく早く)。
- ④整枝 一番茶摘採後14日～21日を目安に、一番茶摘採面と同じ位置で整枝してください。

2026	日	月	火	水	木	金	土
5						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24 31	25	26	27	28	29	30

令和8年
2026

6

月 水無月
(みなづき)

2026	日	月	火	水	木	金	土
7				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

予 定 と 記 録		
1	月	
2	火	
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	芒種
7	日	
8	月	
9	火	
10	水	
11	木	入梅
12	金	
13	土	
14	日	

稲作の管理

●中干し

効果

- ①穂数制限により、玄米の厚みを増し食味向上を図ります。
- ②イネの倒伏に関係する稈の基部を強くし、弱りかけている根に酸素を与え力をつけます。
- ③無効分けつの発生を抑えます。

時期

目標とする茎数の約8割を確保したらすぐ行いましょう。

植付株数/坪	時 期
50株/坪	20~21本/株
60株/坪	17~18本/株

方法

- ①6月上旬～中旬に溝切りをします。
- ②中干しの程度は田の条件に応じて行います。
 - 肥えた水田、ワラやきゅう肥などを多く施した水田、また粘土分が多く水はけの悪い水田では田面に割れ目が入り、踏み込むと足跡が軽くつく程度に干します。
 - 砂質田は軽く、粘質田はやや強くするが、極端な中干しはかえって根を傷め倒伏を招くことがあります。

●追肥

みずかがみは6月1日～5日頃、コシヒカリ・にじのきらめき・キヌヒカリは6月5日～10日頃、きぬむすめは6月20日頃、きらみずきは6月28日頃、滋賀羽二重糯は6月25日頃に施用します。(施用量は、32～38頁参照)

15	月	
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	
20	土	
21	日	父の日、夏至
22	月	
23	火	
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	
28	日	
29	月	
30	火	

野菜のたねまきと植え付け時期

上旬 ごま、セロリ、さつまいも
 中旬 二十日だいこん、スイートコーン（たまねぎ跡）、きゅうり
 下旬

麦の管理

麦乾燥施設の稼働計画に基づき適期に刈取りましょう。

麦ワラの焼却防止

麦の収穫作業が終了したほ場の麦わらには、「チツソ」や「リン」が含まれているため土壌改良に役立つこと、および環境保全の観点から全量全面に鋤き込んでください。

なお、麦わらを焼却すると、周辺への煙害による交通事故等の発生や飛び火による火災が懸念されますので、麦わらの焼却はしないでください。

茶の管理

①病害虫防除

クワシロカイガラムシ・チャトゲコナジラミは発生を見て適期防除（6月上旬～中旬）
 チャノホソガ・チャノミドリヒメヨコバイ・チャノキイロアザミウマ・炭そ病防除（6月中旬～下旬）（摘採前日数に注意）

②二番茶摘採

刈り遅れないよう適期に実施しましょう。

大豆の播種

（40頁参照）

①ほ場に排水溝をつけ、排水口につなぎ

排水対策を徹底してください。

排水の良いところ・・・6mに1本

排水の悪いところ・・・3mに1本

②播種は、梅雨時期になるため、天候を見て適期に行いましょう。

（播種適期は慣行：6月25日～7月15日、

密植無培土：7月20日～7月31日）

③栽植密度 慣行10,000～15,000本/10a

（条間60～75cm×株間10～20cm）

密植20,000～30,000本/10a

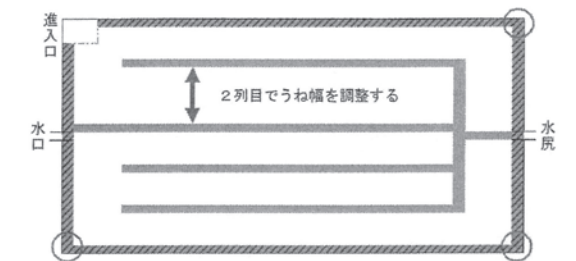
（条間30～45cm×株間10～20cm）

種は一粒播きとし、播種量は慣行3～4kg・密植7～8kg程度とする。

④播種時に下記の除草剤を必ず散布しましょう。

薬剤名	使用量	使用時期
ラクサー粒剤	4～8kg/10a	播種後出芽前 （雑草発生前）
トレファノサイド粒剤2.5	4～6kg/10a	播種後出芽前

◎一般的な優良排水施工事例



- ・外周を先に施工する。
- ・反転式のスクリュウオーガ式等で四隅をしっかりつなぐ。
- ・水尻側は一番深く掘る。

2026	日	月	火	水	木	金	土
6		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				

令和8年
2026

7

月 文 月
(ふみづき)

2026	日	月	火	水	木	金	土
8							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23 30	24 31	25	26	27	28	29

予 定 と 記 録		
1	水	
2	木	半夏生
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	小暑、七夕
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	

農薬記帳

農薬を購入使用したときには必ず記帳する。

農薬の安全使用5ヶ条

- ①農薬の使用方法の確認
- ②飛散しにくい農薬の剤型の選択
- ③散布機具（ノズル・ホース等含む）の洗浄
- ④周囲の作物への飛散に気をつける
- ⑤隣近所との連絡をまめに

稲作の管理

●穂肥（稚苗5月10日植、平坦地）

品 種	出 穂 期	幼穂形成期	穂 肥 ①	穂 肥 ②	穂 肥 ③
みずかがみ	7月25日	7月1日	7月1日	7月15日	——
コシヒカリ	8月2日	7月8日	7月13日	7月20日	走り穂
にじのきらめき	7月29日	7月4日	7月4日	7月21日~26日	——
キヌヒカリ	8月3日	7月6日	7月6日	7月13日	7月25日
きぬむすめ	8月10日	7月15日	7月15日	8月1日~5日	——
きらみずき	8月9日	7月14日	7月7日	7月21日	——
滋賀羽二重糯	8月12日	7月18日	7月25日	8月1日	8月8日

※施用量については、32~38頁参照。

※幼穂形成期や出穂期は天候により左右されます。穂肥は必ずほ場ごとに幼穂や葉色の状況を見て判断しましょう。

●病害虫防除

病害虫名	薬 剤 名	成分数	10a当り散布量	使用時期
いもち病	コラトップ1キロ粒剤12	1	1 kg	穂いもちに対しては出穂30日前~5日前まで
ツマグロヨコバイ ウンカ類 カメムシ類	キラップ粒剤	1	3 kg	収穫14日前まで
	キラップ粉剤DL	1	3 kg	
	キラップフロアブル	1	1000~2000倍を60~200ℓ	

15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	海の日、土用
21	火	
22	水	
23	木	大暑
24	金	
25	土	
26	日	土用の丑の日
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

野菜のたねまき時期

上旬 チンゲンサイ、こまつな
 中旬 キャベツ、メキャベツ
 下旬 秋どりスイートコーン、ブロッコリー、カリフラワー

◎出穂前後の水管理は常時湛水で

安全・安心な良質米づくりおよびカドミウム吸収抑制のために、出穂前3週間から出穂後3週間まで湛水管理（水深3cm程度）を行います。

大豆の管理

1. 中耕培土は除草をかねて播種後20～30日頃に1～2回実施します。
2. 雑草が残る場合は雑草の種類によって除草剤を散布します。

雑草の種類	薬剤名	散布時期	10a当り散布量
イネ科雑草が多い場合	ポルトフロアブル	イネ科雑草の3～10葉期 (収穫30日前まで)	200～300ml (希釈水量50～100L)
広葉雑草が多い場合 (イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤	大豆の2葉期～開花前 (収穫45日前まで)	100～150ml (希釈水量100L)

3. 大豆バサグラン使用上の注意事項

- ①本剤の使用により、大豆の葉に斑点、色抜け、黄変、縮葉症状の一過性の薬害が生じます。
- ②この薬害の程度及び薬害の回復は品種により異なり、減収となる場合もあるので、使用者の責任において事前に使用品種における薬害の程度を十分確認してから使用してください。
- ③枝豆には使用しないでください。

茶の管理

- 病虫害防除
 輪斑病（7月上旬～中旬）
 チャノコカクモンハマキ、カンザワハダニ（7月中旬）
 チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、エダシヤク類
 炭そ病、もち病（7月中旬～8月上旬）
 いずれも発生に注意し防除してください。

夏の作業で気を付けること（熱中症に注意）

1. 日中の気温の高い時間をできるだけ外して作業をしましょう。(42頁参照)
2. こまめな休憩、水分補給を行きましょう。
3. 帽子、吸汗速乾性素材の服、ファン付きの作業着など服装に気を配りましょう。
4. 日よけや日陰で作業したり、ハウスでは風通しがよくなるようにしましょう。

2026	日	月	火	水	木	金	土
7				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

令和8年
2026

8

月 葉 月
(はづき)

2026	日	月	火	水	木	金	土
9			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

予 定 と 記 録		
1	土	
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	
6	木	
7	金	立秋
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	山の日
12	水	
13	木	
14	金	

農薬飛散防止5ヶ条

- ①風の強い日には散布しない
- ②作物の近くで散布し、噴頭を上げない
- ③適正な散布機の圧力と風量
- ④適正な散布量
- ⑤遮蔽シート・ネット・作物等の利用

稲作の管理

●落水の時期（目標 収穫5日前まで入水）

- ①落水時期は収穫作業に支障のないかぎり遅らせてください。
- ②落水の時期が早いと、収量・品質を低下させる原因になります。

自家採種STOP!!

- ・安全・安心の米づくりのため、種子更新100%を目指します。

大豆の管理

- ①病害虫防除
下旬にトレボン粉剤DLもしくは乳剤を、莢によくかかるように散布します。
- ②晴天が続く場合は7～10日間隔で夕方から夜間に畝間かん水をしましょう。

茶の管理

- ①酸度矯正（秋肥施用の約2週間前）
土壤改良資材の施用により酸度矯正と苦土の補給を図りましょう。
- ②深耕・堆肥施用
土壤の物理性の改善と整せん枝残さのすき込みにより新根の発育促進と施肥効率の向上を図りましょう（8月～10月上旬まで）。
- ③秋肥の施用
有機質肥料を主体に施用（9月中旬まで）。
- ④病害虫防除
クワシロカイガラムシ、チャトゲコナジラミ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノココクモンハマキ、チャハマキ（8月中旬～下旬）、カンザワハダニ、チャノホソガ（8月下旬～9月上旬）、いずれも発生に注意し、防除してください。

15	土	
16	日	
17	月	
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	
23	日	処暑
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	

野菜のたねまきと植え付け時期

上旬 ブロッコリー、カリフラワー（晩生）
 中旬 はくさい（育苗）、にんじん
 下旬 こまつな、レタス、はくさい、秋じゃがいも、ねぎ

野菜の管理

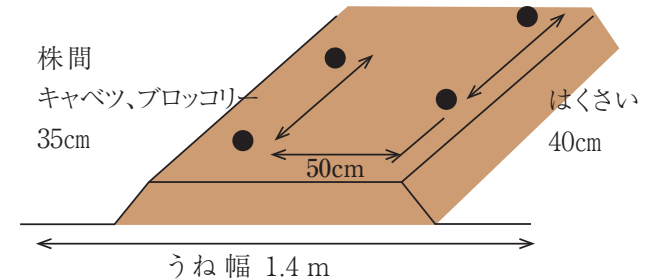
●キャベツ、はくさい、ブロッコリーの栽培

① 施肥、うね立て

1 アール当たり完熟堆肥200kg、苦土消石灰10kg、ようりん4kg、高度化成10kgを施し、幅1.4mのうねを立てます。

② 植え付け

キャベツ、ブロッコリーは株間35cm、はくさいは40cm間隔で、2条千鳥で植え付ける。セル成型苗（128穴～200穴）は本葉3枚、ポリポット苗は本葉5枚の若苗を植え付けます。



③ 追肥

1回目の追肥

定植14日後

1 アール当たり高度化成3kgを施し、軽く中耕培土します。
 生育の目安 展開葉数7～10枚

2回目の追肥

定植30～40日後

1 アール当たり高度化成4kgをうね肩に施用します。
 生育の目安 キャベツ、はくさい：結球始期
 ブロッコリー：展開葉数12～16枚

年明けどりの場合は、12月上旬に3回目の追肥を行います。

④ 病害虫防除

シンクイムシ（ハイマダラノメイガ）やハスモンヨトウなどの害虫が発生します。シンクイムシは植え付け直後から生長点（芯）を、ハスモンヨトウは多数の幼虫が葉裏を一斉に食害します。

植え付け時に粒剤を施用するとともに、生育期には薬剤が生長点や葉裏に良くかかるよう散布し、早期防除に努めましょう。

台風対策を万全に!!

台風シーズンが到来します。強風や大雨による被害が心配されますので、ハウスや棚等の施設の点検やほ場の排水対策をしっかりと行いましょう。

2026	日	月	火	水	木	金	土
8							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23 30	24 31	25	26	27	28	29

令和8年
2026

9

月 長 月
(ながつき)

2026	日	月	火	水	木	金	土
10					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

予 定 と 記 録		
1	火	二百十日
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	
6	日	
7	月	白露
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	

秋の農作業安全月間

- 農業機械の点検はエンジンを止めてから行いましょう。
コンバインやトラクターなどの機械の点検や修理を行う際には、必ずエンジンを止めてから行いましょう。
- 道路に泥を落とさないようにしましょう。
クローラーや車輪についた泥をよく落としてから走行するようにしましょう。

稲作の管理

●刈取適期

青刈の割合が10～15%になった時。

品 種	出穂からの日数	刈取適期の目安
みずかがみ	30日～39日	8月27日
コシヒカリ	30日～39日	9月3日
にじのきらめき	40日～45日	9月7日
キヌヒカリ	32日～38日	9月4日
きぬむすめ	35日～40日	9月21日
きらみずき	35日～40日	9月16日
滋賀羽二重糯	45日～50日	9月26日

注意：刈取適期は天候により左右されます。キヌヒカリは特に穂発芽しやすいので刈遅れしないようにしましょう。刈取適期は必ずほ場ごとに穂の状況を見て判断してください。

●収穫機械利用の注意点

- ①コンバイン作業は特に事故が多いので、農作業安全に十分気をつけましょう。
- ②コンバインで収穫した生籾は4時間以上放置しておくとし「ムレ米」「ムセ米」になりやすいので、速やかに通風乾燥してください。

●乾燥、調製

- ①過乾燥米は食味低下をまねくので、玄米水分14.5～15.0%を目標に仕上げます（仕上げ水分は乾燥機の自動水分計に頼らず、手もちの水分計で確認する）。

15	火	
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	彼岸
21	月	敬老の日
22	火	振替休日
23	水	秋分 秋分の日
24	木	
25	金	
26	土	
27	日	
28	月	
29	火	
30	水	

野菜のたねまきと植え付け時期

上旬 だいこん、ほうれんそう、ひのな、わけぎ
 中旬 だいこん、たまねぎ、みずな、みぶな、なばな
 下旬 だいこん、しゅんぎく、たかな、にんにく ※だいこんは3回に分けてまく

- ②高温乾燥の防止
高い温度で乾燥すると胴割米が発生したり、ムラ乾燥となり食味をいぢじるしく悪くします（もち米は、水分16.0%で乾燥機を止めて、8～10時間静置してから再度14.0%を目標に乾燥します）。
- ③ライスグレーダーの網目1.90ミリ（LLサイズ）以上を使用し、整粒歩合を高めましょう。

大豆の管理

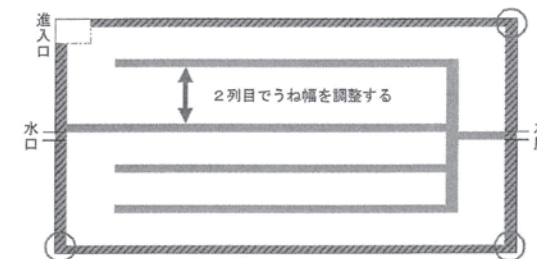
- 病害虫防除
上旬にトライトレボン粉剤DLまたはアミスタートレボンSE、中旬にミネクトエクストラSCを莢によくかかるように散布します。
カメムシ類注意報発生時はキラップ、ハスモンヨトウ等蝶目注意報発生時はブロフレアSCの散布が効果的です。

麦の栽培ほ場の排水対策を早くから

◎収量・品質を向上するために最も重要な作業は「排水対策」です!!

- ①水稲の収穫作業は、田の土が乾いた時に行い刈取後、できるだけ早く排水対策を行います。
- ②特に、ほ場の縁（畦畔際）、法面の下や枕地に残ったコンバイン・トラクターのタイヤ跡などに溝を掘り、排水口につないで地表排水に努め、播種前にはほ場を十分に乾かします。
- ③本暗渠の入っているほ場では、本暗渠に対して直角に2～5mの間隔で弾丸暗渠を施工するのも有効です。
- ④ほ場内の排水溝の間隔は、排水条件の悪いほ場では3～5mとし、それ以外のは場で5～7mとします。重要なのは溝と溝をキッチリつなぐことです。
- ⑤ソバ跡には、麦を作付しないでください。

◎一般的な優良排水施工事例



- 外周を先に施工する。
- 反転式のスクリーオーガ式等で四隅をしっかりとつなぐ。
- 水尻側が一番深く掘る。

2026	日	月	火	水	木	金	土
9			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

令和8年
2026

10月 神無月

(かなづき)

2026	日	月	火	水	木	金	土
11	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

予 定 と 記 録	
1	木
2	金
3	土
4	日
5	月
6	火
7	水
8	木
9	金
10	土
11	日
12	月
13	火
14	水

土づくり運動強化月間

稲作の管理

●ヒコバエ等を適期に鋤きこんで、野生獣を遠ざけましょう。

野生獣の被害が見込まれる地域では、ヒコバエの発生が多い10月中旬～11月上旬に秋耕を行いましょう。

ロータリー耕では、通常よりロータリー回転を1段高速にします。

●良食味米・丈夫な稲づくりは土づくりから

①作土深15cm以上の深耕

根域が拡大し登熟期間の窒素、水分の吸収能力が高まります。

②土づくり資材の施用

主な土壌改良資材	施用量（10アール当たり）および方法
シリカサポート1号	4袋を全面施用
けい酸加里プレミアム34	3袋を全面施用
オイスターミネラル	5袋を全面施用
新ふりかけ堆肥ecoエコ	5袋を全面施用
こうのうコンポ	10袋を全面施用

③有機物の施用

・稲ワラ…全量を早くすき込む。石灰窒素を10kg施用すると早く腐ります。

・糞がら…500kg（40アール分）までを早くすき込みます。

・家畜堆肥を有効に利用し、地力維持・増進をはかってください。(3・4頁参照)
耕起前（年内）施用として10アール当たり

牛ふんの場合………1,000kg～2,000kg

鶏ふんの場合………100kg～300kg

を基準とする。ただし基肥は½程度に減量します。

④野焼きをしない

水稻収穫後の稲わらの処理については、周辺への煙害による交通事故等の発生や飛び火による火災が懸念されますので、稲わらは焼却しないでください。

麦の管理 (39頁参照)

●「排水対策」「適期播種」「適正な施肥」を励行し、収量・品質の向上!!

①麦は酸性土壌を嫌うため、播種前に必ず土壌改良資材（粒状ハレー28 100kg/10aなど）を施用し、土のpHを適正にしましょう。

15	木	
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	
20	火	土用
21	水	
22	木	
23	金	霜降
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	
30	金	
31	土	

野菜のたねまきと植え付け時期

中旬 いちご
下旬 えんどう、そらまめ

- ②小麦の播種は中山間地で11月5日～10日、平坦地で11月7日～15日の間で、ほ場がよく乾いている時に行います。
播種量は条播で8～10kg/10aとし、湿田など発芽が悪いほ場では、10kg/10aを播種しましょう。播種時期が早すぎると凍霜害や黒節病の病気にかかりやすくなります。播種時期が遅れる場合は、1～2kg/10a種子量を増やしましょう。
- ③耕起後に、雨が降ると播種ができないことがあるため、資材散布～耕起～施肥～播種～覆土～除草剤散布の一連の作業は1日のうちに完了しましょう。

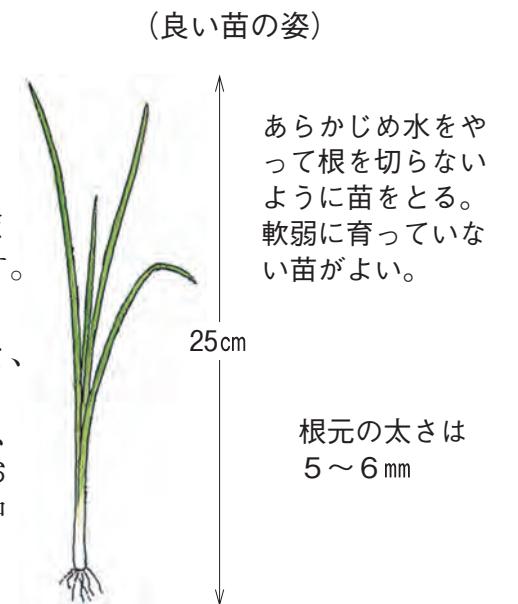
茶の管理

- ①秋整枝
平均気温18℃以下になってから行ってください（寒冷地は上旬、暖地は中旬）。
整枝位置は春整枝を参照（5頁）。
- ②病虫害防除
カンザワハダニ…越冬前に防除（10月下旬～11月上旬）。
チャトゲコナジラミ…10月下旬
赤焼病…10月中旬～下旬

野菜の管理

たまねぎの管理

- ①植付け
11月中旬に、幅1.5mほどのうねを作り、株間10～12cm、4条（条間20cm）に植えます。1坪の畑なら、苗は100本程度必要です。
- ②追肥のポイント
追肥は、高度化成肥料を1㎡あたり約30g、3回施します。
1回目は12月中旬頃、2回目は2月上旬、3回目は3月上旬に施し、浅く中耕しておきます。特に3回目の追肥を遅く（3月中旬以降）に施すと、収穫後、貯蔵中に腐りやすくなるので気を付けましょう。



- ③病害の防除
春先に雨が多いと、「べと病」が発生しやすくなります。べと病に侵されると、葉先が黄色く枯れてきます。
べと病は、発病してからでは防除が難しいので、発生前から計画的に防除を行うと効果的です。
また、たまねぎを連作したり、畑の排水が悪くてもべと病が発生しやすくなるので注意が必要です。
(べと病の防除例)

3月上中旬	ジマングアイセン水和剤	400～600倍	収穫3日前まで（予防）
3月下旬	ダコニール1000	1,000倍	収穫7日前まで（予防）
4月上中旬	リドミルゴールドMZ	500～1,000倍	収穫7日前まで（予防・治療）

2026	日	月	火	水	木	金	土
10					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

令和8年
2026

11月 霜月

(しもつき)

2026	日	月	火	水	木	金	土
12			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

予 定 と 記 録	
1	日
2	月
3	火 <small>文化の日</small>
4	水
5	木
6	金
7	土 <small>立冬</small>
8	日
9	月
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土

土づくり運動強化月間

稲作の管理

●土壌にはカドミウムが含まれており米への吸収抑制が必要です。

【カドミウム抑制対策】

- ①アルカリ分を含む土づくり資材を施用しましょう。
- ②出穂前後各3週間は湛水管理を実施しましょう。

麦作の管理

播種覆土後のほ場排水に努めましょう。

果樹の植付け

落葉果樹：12月

カンキツ類、イチジクなど寒さに弱い果樹：3月

【ほ場の準備】

日当たりが良く、水はけのよいほ場を選び、できるだけ早く植え穴の準備をします。少なくとも植付けの1～2週間前には終わらせておきましょう。

直径80cm、深さ50cm程度の植え穴を掘り、掘り上げた土に、腐葉土（または完熟たい肥）と、ようりん、苦土石灰を混ぜ、約20cm盛り上げて埋め戻しておきます。

【苗の選び方】

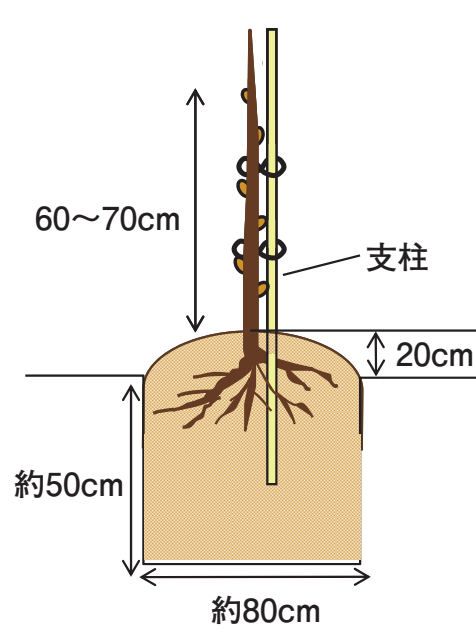
細かい根がたくさん出ている苗を選びましょう。病虫害の被害を受けた苗は避けましょう。

落葉果樹では、大きく充実した芽がついた苗を、かんきつ類では、濃い色の葉がついた苗を選びましょう。

リンゴやウメなどは、実をならせるために2品種以上植付ける必要があります。樹種の特徴を十分に理解してから植付けましょう。

また、苗木は、根を乾かさなことが肝心です。苗木が届いてから植付けまで間があく場合は、根が露出しないよう仮植えしておきましょう。

15	日	七五三
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	
21	土	
22	日	小雪
23	月	勤労感謝の日
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	



【植付け方法】

苗木の根全体を、水に一晩つけて、水揚げします。

折れたり傷んだりしている根を切り取り、支柱にひもで固定してから、準備した植え穴に根を十分に広げて植付け、土をかぶせます。接ぎ木部分が地面から出るように浅く植えましょう。

落葉果樹の場合は、60~70cmの高さの大きく充実した芽の位置まで切り詰め、切り口にペーストの殺菌剤を塗ります。カンキツ類は、切り詰める必要はありません。

植付け後は、たっぷりとかん水しましょう。

農業用使用済みプラスチック類の適正処理を実践しよう

1. 目的

農業用使用済みプラスチック類は産業廃棄物に該当するため、一般のゴミに出したり野焼きをして処理することは禁じられています。

そのため、農業用使用済みプラスチック類は倉庫に保管し、各地区の回収日に出して適正に処理しましょう。

2. 回収の対象となるプラスチック類

肥料の空袋、育苗箱、農ポリ、畦畔シート、農薬ボトル等、農業生産から出る使用済みとなった廃プラスチック類（**以外のもの、中味の残ったものは回収できません**）。

3. 搬入について

- ①肥料の空袋に廃プラスチック類を詰めて指定日に指定場所へ搬入してください（**実施時期は11月頃**）。
- ②プラスチック類についている「泥」、「その他金具・異物」はできるだけ取りのぞいてください。
- ③肥料の空袋は「きれいな袋」「汚れた袋」の分別をお願いします。
- ④肥料の空袋に入らない物は、持ち運べるように梱包してください。使用する「ひも」は焼却できるものとし（針金等は使用しない）。
- ⑤農薬ボトルは、必ず洗浄し、キャップをはずし、他の排出物と区別して搬入してください。
- ⑥運搬時は運搬車に表示及び書面の備え付けが義務付けられていますのでご注意ください。
- ⑦「委任状」は必要事項を記入、捺印のうえ、搬入時に持参してください。

中旬 たまねぎ 野菜の植え付け時期

きれいな物、よごれた物の分別をお願いします 22

2026	日	月	火	水	木	金	土
11	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

令和8年
2026

12月 師走
(しわす)

2027	日	月	火	水	木	金	土
1						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24 31	25	26	27	28	29	30

予 定 と 記 録		
1	火	
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	
6	日	
7	月	大雪
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	

土づくり運動強化月間

大豆の管理

- 刈取りは葉がおちて莢がカラカラと音がする時期から1週間後に刈取ります。
- 草刈機で刈り倒す場合は露でしめっている朝夕や曇天時に行います
(ただしコンバイン収穫は10時から16時を目途に行う)。
- 脱粒作業時には、汚損粒の防止(生育遅れの株や雑草の抜取り・刈り刃の高さをこまめに調整し土の混入を防ぐ)に努めてください。

麦作の管理

- ・湿害防止のため排水溝の溝さらえをしてください。

小菊作りのポイント

①標準的なさし芽の時期

7月咲き品種	3月中旬～下旬
8月	3月下旬～4月上旬
9月	4月中旬～下旬
10月	5月上旬～中旬
11月	5月下旬～6月上旬
12月	6月中旬～7月上旬

②さし芽用培土

通気性、保水性がよく、無菌・無肥料であるものを用います。
資材としては、赤玉土・鹿沼土・川砂・パーライト・バーミキュライト等が適します。
さし芽用の土は毎回新しく変えます。

③さし芽

さし芽をする箱は排水のよい、清潔なものを用います。
勢いのある若い芽を選び、晴れた日の午前中に採ります。
芽の長さは5cm、展開葉2枚程度に整理します。
十分かん水した培土に深さ2cm、葉と葉がふれあう程度でさします。

・気温の低い時期のさし芽は、「密閉ざし」という方法が向いています。

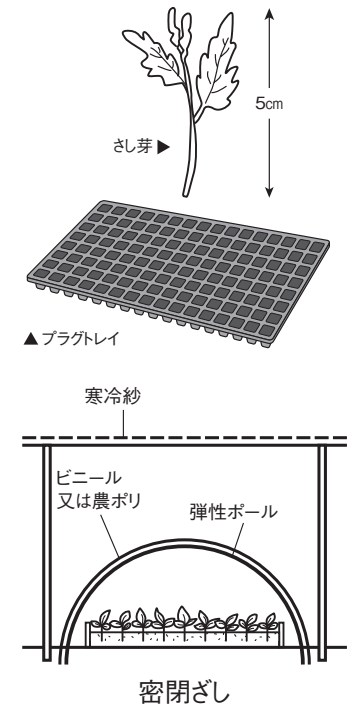
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	冬至
23	水	
24	木	
25	金	クリスマス
26	土	
27	日	
28	月	
29	火	
30	水	
31	木	

【密閉ざしの特徴】

- ・7月～8月咲きの小菊のように気温の低い時期のさし芽で発根率が上がります。
- ・トンネルを開けるまで水やりの必要がないので、手間が省けます。

～密閉ざしの方法～

- ①さし芽をとる株は、さし芽を行う1ヵ月前に摘心し、摘心した後にでてくる芽を用います。
- ②さし芽は5cm程度、展開葉は2～3枚に整理します。
- ③プラグトレイの上に弾性ポールでトンネルを作り、農ポリをかぶせ、すそに土をのせて密閉します。
- ④トンネルの上、地面から高さ1m位のところに寒冷紗等で日よけをします。
- ⑤さし芽の葉が伸びてきたら（約10日後）トンネルを徐々に開けて、日よけを外し外気にならします。
- ⑥培土の表面が乾いたら水をやり、さし芽から遅くとも1ヵ月以内には定植しましょう。



税務申告の準備をしておこう ～正しい申告のために～

◎農業所得とは、

$$\text{収入金額} - \text{必要経費} = \text{所得金額}$$

●収入金額となるもの

- ・販売金額（米、野菜等の農産物の販売金額）
- ・家事消費・事業消費金額（農産物を家事及び事業に消費した場合）
- ・雑収入（受取共済金、出荷奨励金、農作業受託料など）
- ・農産物の棚卸高（原則、収穫時の販売価額で計上） など

●必要経費となるもの

- ・雇用費、小作料
- ・減価償却費（農業用建物・農機具・農業用車両などの償却費）
- ・租税公課（農業用資産の固定資産税・自動車税など）
- ・種苗費、肥料費、飼料費
- ・農具費（使用可能期間が1年未満か取得価額が10万円未満の農具の購入費用）
- ・農薬衛生費、諸材料費、修繕費、動力光熱費、農業共済掛金、土地改良費 など

低コスト果樹棚で果樹栽培にチャレンジ

作業らくらく！ 収穫まで早い！ 小面積でもOK！

ナシ低樹高栽培

定植4年目から本格収穫



植付け3年目で初収穫、4年目で従来の栽培方法並みの収穫が期待できます。(2t以上/10a)

樹型を単純化
上向き作業を軽減



導入事例

主枝を地上高1mで二本主枝に配置、管理作業は作業者の目線での作業になります。

低コスト果樹棚



従来の平棚栽培に比べて資材費を大幅に軽減できます。また、労力に見合った小面積の栽培も可能です。

導入事例

ブドウ改良仕立て栽培

着色改善・高品質化



導入事例



防根シート製ポットを土中に埋設して栽培します。樹勢が落ち着き着色の改善が可能です。

主枝位置を下げて
上向き作業を軽減



主枝を棚面から30～40cm下げることで、摘粒作業など肩の凝る上向き作業が軽減されます。

低コスト果樹棚

雨除け施設とブドウ棚が一体となった低コスト棚です。自家施工可能で、労力に見合った小面積からの設置も可能です。

導入事例



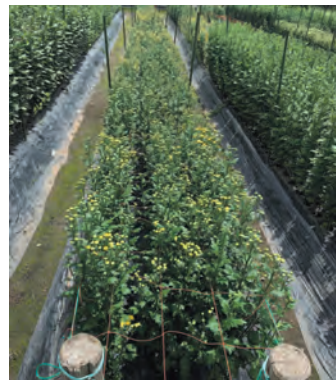
切り花栽培を始めませんか!!

仏花として需要あり! 省力栽培可能!

小ギク

小ギクは、お盆、正月、春と秋の彼岸の時期には欠かせない品目です。

品種の組み合わせおよび、露地栽培とハウス栽培を組み合わせることで5月～12月までの栽培が可能になります。



収穫適期の蕾



黄、赤、白の3色を結束

収穫後は長さ60cmに切り揃えて、黄、赤、白の3色でパックに組み、出荷します。

甲賀地域の小ギクは出荷先から高い評価を得ており、お盆・秋の彼岸・年末に出荷する小ギクの増産を期待されています。



出荷の様子

リンドウ

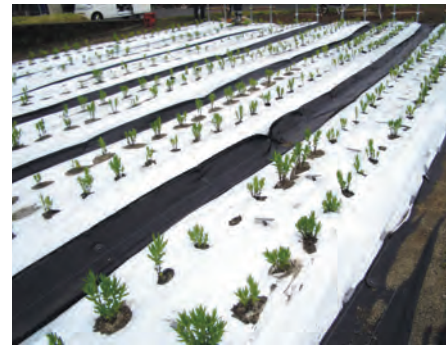
初夏から秋にかけて主に鮮やかな青紫色の花をつける宿根草です。

1株から複数の芽が立ち、株が大きくなるほど芽の数が増え切り花の本数も増えます。

栽培には、粘質で保水力のあるほ場が適しています。



定植直後の苗



定植2年目(4月)の株

1年目は収穫せず株を養成します。2年目から収穫が始まり、定植して5年目(4作)まで植え替えずに収穫ができる省力的な品目です。



定植2年目(7月)の株

中輪ギク

プランターを用いた「少量土壌培地耕」で省力栽培します。お盆向け出荷の場合、5月中下旬から栽培が始まるので、水稻育苗ハウスの後利用ができます。

夜間に照明を当てる電照栽培は開花時期を調整するため、収穫・出荷調製等の作業計画を立てやすい利点があります。



電照による開花時期の調整

枝物類

花き業界では枝物や葉物等のグリーン花材の需要が大きく伸びています。

甲賀地域では、フラワーアレンジメントやブライダルで需要の多いユーカリを中心に、枝物類の生産を推奨しています。



スナップエンドウを作ってみませんか！

一株から広がる緑の世界！

スナップエンドウは、さやごと食べられるのが大きな特徴です、シャキシャキとした歯ごたえと、ほんのりとした甘みが楽しめる、近年とても人気の野菜です！

👉 おすすめポイント

- ① 未経験者の方でも気軽に取り組みます！
- ② 少ない面積でも取り組みます！
- ③ 大きな機械がなくても大丈夫です！
- ④ 出荷作業が簡単です！（段ボール箱出荷）
- ⑤ 安定した価格で販売できます！



○作型

作型	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		備考		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
秋まき	← 収穫 →										← 播種 →														品種によって収穫時期が異なる		
春まき			← 播種 →		← 収穫 →																						気温によっては定植の可能性あり
	10月上 ~中旬				10月下旬 ~11月上旬				11月中旬 ~下旬				12月上旬~3月下旬				4月上旬~6月中旬										
秋まき					は種				定植				冬越し				収穫										
作業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・土づくり ・畝立て ・元肥施肥 				<ul style="list-style-type: none"> ・は種 (直播・定植) ・文化の日 (11/3) 				<ul style="list-style-type: none"> ・定植 (育苗の場合) ・防除① 				<ul style="list-style-type: none"> ・2月中下旬 追肥(1回目) ・防除② 				<ul style="list-style-type: none"> ・4月上旬 追肥 (2回目) ・肥糧持ちが悪い砂質圃場 葉色が低下した場合 追肥(3回目) 										



家庭で楽しむ「花づくり」

品名	科名	原産地	特性	品種例	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	栽培のポイント	施肥 (1㎡当り)
アネモネ	キンボウゲ科	地中海沿岸	秋植球根	ブランド系 コロナリア系				開花						植付			強い霜がある時は、霜除けが必要。球根は逆円錐形をしているので注意。平らな方が上。酸性を嫌うので、苦土石灰を入れる。窒素分が多いと花が咲かない。	花壇／基肥は完熟堆肥 2 kg、腐葉土 2 kg、苦土石灰 150 g、緩効性肥料 100 g。
カスミノウ	ナデシコ科	ヨーロッパ 北アフリカ	一年草 宿根草	アカバナカスミノウ系 プリストルフェアリー系					開花					種蒔	植付		乾燥する砂質の土が適する。酸性を嫌うので苦土石灰を入れる。窒素分は少なめ、リン酸、カリ分を多めに。育苗時に摘芯をすると草丈が低くなる。	花壇／基肥は堆肥 1 kg、苦土石灰 150 g、緩効性肥料 100 g。追肥は控える。
キンギオンウ	ゴマノハグサ科	地中海沿岸	一年草	フローラルカーペット系 ニューマジックカーペット系 ペンステム系					開花					種蒔			発芽に光を必要とする好光性種子であり、覆土は必要なし。低温に比較的強い。軒先やフレームの中で越冬できる。肥料が多いと花数が減るので注意。	花壇／基肥に堆肥 2 kg と化成肥料 80 g。 鉢、プランター／用土 1 リットル当たり化成肥料 2 g。
キンセンカ	キク科	地中海沿岸	一年草	八重咲大輪系 矮性大輪系			植付	開花						種蒔			酸性を嫌うので苦土石灰を入れる。うどんこ病、灰色かび病、菌核病などの病害が発生しやすいので要注意。	花壇／基肥は堆肥 3 kg、苦土石灰 150 g、化成肥料 100 g を混合。追肥は生育の悪い時のみ化成肥料 30 g。
クロタネソウ (ニゲラ)	キンボウゲ科	地中海沿岸	二年草					開花						種蒔			種まき後、光が種子に当たると発芽しない嫌光性種子のため覆土はむらなくする。耐寒性は強く霜除けは行わない。肥料は少なめ。	花壇／基肥は堆肥 2 kg、やせ地では有機肥料を少量与える。 鉢／用土 1 リットル当たり化成肥料 1 g。
ゴテチャ	アカバナ科	北アメリカ 西岸地方	一年草	八重咲系 高性系					開花					種蒔			やせ地でもよく育つが、排水が悪いと根腐れを起こす。排水のよい所を選ぶ。敷きわらや霜除けをして越冬させる。肥料は緩効性のものを主体に少な目にする。	花壇／基肥は堆肥 2 kg、緩効性肥料 50 g。追肥は 4 月頃化成肥料 20 g。 プランター／用土 1 リットル当たり緩効性肥料 3 g。
スイートピー	マメ科	イタリア	一年草	春咲系					開花					種蒔			種子は硬実種子で皮が硬いため、発芽率が悪い。2～3時間ぬるま湯に浸け、膨らんだ種子を蒔く。連作を嫌う。窒素肥料は控えめに、リン酸、カリを主体に側枝が伸びたら支柱をする。	花壇／基肥は堆肥 5 kg、苦土石灰 100 g、骨粉 100 g。
ストック	アブラナ科	南ヨーロッパ	一年草	1本立系 分枝系 スプレー系	開花									種蒔			本葉 5～6 枚位でプランターや鉢に定植する。分枝系は活着したら本葉 7 枚前後で摘芯し、4 本位枝を出させる。スプレー系は頂点の蕾が色づいた時に花を摘みとる。	花壇／基肥は堆肥 3 kg、苦土石灰 100 g、化成肥料 100 g。追肥は出蕾期に 50 g。 プランター／用土 1 リットル当たり化成肥料 2 g。
ナデシコ類 (ダイアンサス)	ナデシコ科	日本 北アメリカ ヨーロッパ	一年草 多年草	カワラナデシコ系 セキチク系 ヤマトナデシコ系				開花						種蒔	植付		矮性種は 20cm、高性種は 30cm 間隔で定植。寒さに弱い品種は霜除けをする。肥料は多すぎると草姿が乱れる。基肥に緩効性肥料を与えるだけで追肥はほとんど不要。	花壇／基肥は堆肥 2 kg、緩効性肥料 80 g。追肥はうすい液肥を与える。
アスター (エゾギク)	キク科	中国	一年草	松本系 くれない系 あずみ系			種蒔	開花						開花	秋蒔		寒さに比較的強く、暑さにやや弱い性質。連作を嫌うので 5～7 年間隔をあける。花壇用矮性種と切花用高性種がある。病虫害の発生が多く、特に生育期間を通じて立枯病が発生しやすい。	花壇／基肥は堆肥 2 kg、苦土石灰 150 g、ヨウリン 50 g、化成肥料 100 g。 プランター／用土 1 リットル当たり化成肥料 1 g。
カンパニュラ (ツリガネソウ)	キキョウ科	北半球の中 緯度地帯	宿根草	メディウム系 ベルシキフォリア系				種蒔	開花					植付	株分け		種子は細かいのでビートパンなどに蒔く。植え付けの適地は品種によって違うので注意。一般的に水はけのよい肥えていないところを選ぶ。窒素肥料は少なめ、有機質肥料を主体にする。半耐性または耐寒性。暑さを嫌う。ハダニに注意。	花壇／基肥は堆肥 2 kg、有機質肥料 100 g。 追肥は生育をみながら薄めとする。
ケイトウ	ヒユ科	インド	一年草	久留米系 キルドーシ系 ブルモーサ系				種蒔						開花			根は直根性で移植を嫌うので、早めに定植する。水はけのよい比較的肥沃な土地を選ぶ。肥料が多すぎると茎が太くなる。10cm 程度に伸びたところで摘芯し、側枝を数本立てるのもよい。高温を嫌い多肥を嫌う。	花壇／基肥は堆肥 3 kg、化成肥料 60 g。 プランター／用土 1 リットル当たり化成肥料 2 g。
コスモス	キク科	メキシコ	一年草	黄花系 シーシェル系 アトロサンギネウス系	(春蒔四季咲系)			種蒔	開花					種蒔	開花	開花	直蒔きが生育も良い。発芽温度は 15～20 度。20×25cm 間隔に 3～4 粒まく。草丈が高くなるので花壇やプランターで栽培するときは、本葉 6～8 枚の頃に上部 2～3 枚を摘芯する。やせた土地でもよく育つ。	花壇／基肥なし追肥は開花中に 1 回化成肥料 20 g。 プランター／500 倍の液肥を月 1～2 回。
ジニア (ヒヤクニチソウ)	キク科	中央メキシコ	一年草	ホフリーギグ系 リネアリス系				種蒔						開花			日本の風土に直し、花期が長く花もちがよい。仏花として親しまれている。最近品種改良が盛んになり、新品種が多く出ている。日当たりと排水のよい肥沃地で、元肥と追肥を充分に与える。連作を避ける。灰色かび病、うどんこ病に注意。	花壇／基肥は堆肥 5 kg、化成肥料 150 g。追肥は月 2 回化成肥料 20 g。プランター／用土 1 リットル当たり緩効性肥料 2 g。追肥は液肥。

各種培養土例


1. たねまき、育苗用……パーミキュライト、ピートモス、与作、タキイたねまき培土、タキイ育苗培土、愛菜 1 号・2 号、さし芽たねまきの土
2. プランター、鉢用……有機培養土、元気パワー、そのまま使える土、肥料入り花と野菜の土、ガーデンの土、庭の土、土一番、園芸培養土

〈用土のポイント〉

1. 空気と水の通りがよいこと。
2. 水持ちがよいこと。(上記とは相反するが)
3. 粉より団子状(団粒構造)であること。
4. 清潔であること。(病気の元となる菌や虫がいない)
5. 土の酸性は高すぎず、低すぎず。
6. 適度な養分があること。

家庭で楽しむ「野菜づくり」(春～夏)

☆1 a 当りの肥料については、
 基肥は、窒素分が10%程度の3要素はいた肥料
 待肥、追肥は、窒素分が16%程度の3要素はいた肥料
 として計算しました。
 ☆その他に1 a 当り、BMよりん4 kg、苦土石灰12kgが基肥に必要です。
 (但し、じゃがいも、さつまいもは、苦土石灰5kgとします。)

科名 連作障害 回避年数	品目名	月別 旬別	3		4		5		6		7		8		9		10		品 種 例	1 a 当り は 種 量 (苗数)	畝幅×株間×条数 (m) (cm)	1 a 当りの肥料 (kg)			栽培のポイント		
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上				中	下	基肥		待肥	追肥
ナス科	なす																				千両2号 みずなす	80本	2.0m×70cm×1条	15	3	収穫始めより10日～ 15日毎2kg	最初の花の下2本の側枝と主枝の3本仕立てにし、それ以下の側枝は摘みとる。(8頁参照)
	トマト																				桃太郎 サターン	280本	1.2m×40cm×1条	6	2	各花房の1果がピン ポン玉の時3kg	第6花房の上、本葉2枚残して摘芯。 基肥を入れ過ぎないように注意。(8頁参照)
	4年 ピーマン とうがらし																				京みどり 伏見甘長	80本	1.8m×70cm×1条	13	2	収穫始めより10日～ 15日毎1～2kg	最初の花の下2本の側枝と、主枝の3本仕立てにし、それ以下の側枝は摘みとる。
2年	じゃがいも		●																		メイクイン 男爵、キタアカリ	15kg	0.7m×25cm×1条	6	2	土寄せの時期に3kg	多く発芽したときは、強い芽を1株当り2～3本残す。 茎葉が茂る前に中耕、土寄せを。
ウリ科	きゅうり																				北進、夏すずみ、 つや太郎、四葉	直播30～50ml 育苗10～20ml	1.2m×70cm×1条	13	2	収穫始めより10日～ 15日毎2kg	5節までの子づるは摘みとる。 それ以上の子づるは2節摘芯。(8頁参照)
	露地メロン マクワウリ																				ニューメロン 金太郎	50本	2.5m×80cm×1条	10		着果後卵形大の時 2kg	親づる5節摘芯で、子づる4本を伸ばし、孫づる2節目で 収穫。
4年	すいか																				紅こだま 夏武輝	30本	3.5m×1m×1条	4		つるが30cmの時と着 果期、肥大終3kg	親づる5節摘芯で、子づる4本を伸ばし、各子づるの2番 花を着果させる。
1年	かぼちゃ																				えびす、グラッセ、 くりゆたか	50本	2.5m×90cm×1条	5		つるが50cmの時と 1番花が10cm時3kg	親づる5節摘芯で、子づる3本を伸ばし、子づるで収穫。 (8頁参照)
ヒルガオ科 ※	さつまいも																				なると金時 紅はるか	400本	0.8m×25cm×1条	6		茎葉が繁茂する迄に 硫酸加里1kg	 のように植える。 6月上旬以降の植え付けは、収量に影響する。
アカザ科 2年	ほうれんそう		●																		おかめ タフスカイ	5～7 dl	1.2m×8cm×4条 (株間は間引き後)	8	2	発芽後15日目2kg	必ず石灰で土の酸性を中和しておく。
キク科 2年	レタス {結球 不結球}		●																		シスコ サニーレタス	育苗4～6ml 直播40～60ml	1.2m×30cm×3条	10	2	定植15日目と本葉10 枚時3kg	種子は一晩流水につけて催芽する。 定植苗は、本葉5～6枚が適当。
セリ科 ※	にんじん		●																		向陽二号	1～2 dl	1.2m×10cm×2条 (株間は間引き後)	10		本葉2～3枚時と本 葉5～6枚時3kg	水分が充分に無いと発芽しにくいので、2～3日流水につ けて、催芽してからまくと発芽が揃う。
マメ科 3年	いんげん																				セレモニー(つるなし) モロッコ	ツルアリ4～6dl ツルナシ5～7dl	1.5m×30cm×2条	12	2	開花始めに2kg、ツ ルアリ種は15日毎に	野菜の中でも特に根の酸素要求量が多く、湿害に弱いので、 水はけを良くする。
アオイ科 ※	オクラ																				アーリーファイブ ベターファイブ	1～2 dl	1.0m×45cm×1条	10		定植後肥切れしないよ うに15～20日毎に3kg	地上部が大きく育つと倒れやすいため、最後の間引きの後 土寄せし、乾燥と地上の上昇を防ぐため敷きわらを行う。
イネ科 ※	スイートコーン																				おひさまコーン キャンペラ ゴールドラッシュ	2～5 dl	1.5m×30cm×2条	10	2	本葉5枚時と、雄穂 の出る前3kg	実が1株に2～3本つくが、最上部の実を残し、他は摘み とる。
アブラナ科	だいこん																				おしん 夏あおい	1～2 dl	1.2m×30cm×2条	10		本葉5～6枚時3kg	無理な早まきは、トウ立ちしやすくなる。間引きは、本葉 1枚時、本葉3～4枚時、本葉5～6枚時にする。
	キャベツ																				初 秋	6～8 ml	1.5m×40cm×2条	12	2	定植15日目と結球始 めに3kg	初期の生育の善し悪しでキャベツの大きさが決まる。 湿害に弱く排水を充分にする。(16頁参照)
	はくさい																				無 双	育苗4～6ml 直播60～80ml	1.2m×40cm×2条	15	2	本葉5～6枚時3kg と結球始めに4kg	間引きは、発芽時、本葉3～4枚時、本葉8枚時の3回に行う。 追肥の後に中耕、土寄せをする。(16頁参照)
2年	こまつな																				楽天 夏楽天 浜美2号	2～3 dl	1.2m×3cm×4条	6		葉色が浅い場合は薄 めの液肥	夏まきは土が乾燥し発芽や生育むらが生じるので、寒冷紗 や遮光資材をかける。
備 考			●	たねまき	🌱	定植	^	ホットキャップ	—	生育期間	■	収穫期間															

家庭で楽しむ「野菜づくり」(秋～冬)

科名 連作障害 回避年数	品目名	7			8			9			10			11			12			1			2			3			品 種 例	1 a 当り は 種 量 (苗数)	畝幅×株間×条数 (m) (cm)	1 a 当りの肥料 (kg)			栽 培 の ポ イ ン ト
		旬別	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	基肥	待肥				追肥			
※	だいこん																									耐病総太り 三太郎 聖護院大根	1～2 dl	1.2m×30cm×2条	10		本葉6枚時3kg	極端な早まきは、アブラムシが多くなりウイルス病にかかり易い。 間引きは、本葉1枚、3～4枚、5～6枚の3回に分ける。			
アブラナ科	こかぶ																									耐病ひかり スワン	0.6～1 dl	1.2m×25cm×2条	10	2	最終間引き後に3kg	間引きは、双葉のとき、本葉2～3枚時、本葉6～7枚時の3回に分けて行う。 根が浅いので生育中の乾燥に注意。			
	ひのな																									日野菜かぶ	0.6～1 dl	1.2m×10cm×2条 (株間は間引き後)	10	2	最終間引き後に3kg	間引きは、双葉のとき、本葉2～3枚時、本葉6～7枚時の3回に分けて行う。			
2年	早どり はくさい年内どり 冬どり																									耐病60日 黄ごころ、金将、 王将、冬峠	直播60～80ml 育苗4～6ml	1.4m×40cm×2条	15	2	本葉5～6枚時3kg、 結球始め4kg	間引きは発芽時、本葉3～4枚時、本葉8枚時の3回に分けて行う。 追肥の後に中耕、土寄せをする。 適期は種に心がける。(16頁参照)			
	カリフラワー																									オレンジブーケ スノークラウン	6～8 ml	1.4m×40cm×1条	6		定植後15日後とその 後20日目に3kg	本葉5～6枚で定植、深植えすると活着が悪いばかりでなく 病気の原因になるので注意。			
	ブロッコリー																									サマードーム すばる ハイツ	6～8 ml	1.4m×35cm×2条	12	2	定植15日後とその後 20日3kg	深植えにすると、活着が悪く病気の原因にもつながるので、 注意する。(16頁参照)			
	キャベツ																									湖月、彩音 味春 YR春空	6～8 ml	1.4m×35cm×2条	10	3	定植15日後と結球始 めに3kg	初期の生育の善し悪しで、キャベツの大きさが決まる。 十分に株作りをする。 結球後に追肥をするとわれやすくなる。(16頁参照)			
アカザ科 2年	ほうれんそう																								アトラス おかめ オーライ	丸5～7 dl 針0.8～1 l	1.2m×8cm×4条 (株間は間引き後)	8	2	発芽後15日目と1ヶ 月目に2kg	必ず石灰を施し、土の酸性を中和しておく。				
ユリ科 2年	たまねぎ																								ターザン ネオアース もみじ3号	60～80ml	1.5m×12cm×4条	8	2	3月上旬までに、2 ～3回3kg	大きな苗や、小さな苗は取り除き、深さ2cmぐらいに植える。				
ナス科 2年	じゃがいも																								デジマ ニシユタカ	15kg	0.7m×25cm×1条	6	2	土寄せの時期に3kg	多く発芽したときは、強い芽を1株当たり2～3本残す。 茎葉が茂る前に土寄せする。				
バラ科 ※	いちご																								宝交早生	60本	1.2m×30cm×2条	5		12月と2月に2kg	野菜の中でも、特に根が弱いので、土の乾燥や肥料あたりに 気を付ける。				
セリ科 ※	にんじん																								陽明五寸 ベーターリッチ	1～2 dl	1.2m×10cm×2条 (株間は間引き後)	10	2	本葉2～3枚時、本 葉5～6枚時3kg	水分が充分ないと発芽しにくいので、2～3日流水につけて からまくと、発芽が揃う。				
キク科 2年	レタス 結球 不結球																								冬シスコ サニーレタス	直播40～60ml 育苗4～6ml	1.2m×30cm×3条	10	2	定植15日目、本葉10 枚時3kg	種子は、一晚流水につけて催芽する。 定植は、本葉5～6枚が適当。				
備 考		●たねまき 🌱定植 ———生育期間 🟡収穫期間																																	

※…… 1～2年の連作は可能であるが、1年以上空ける方が望ましい。

○連作障害には土壌条件等、複数の要因が重なり発生するので、上記表は目安として畑に合った管理を行ってください。

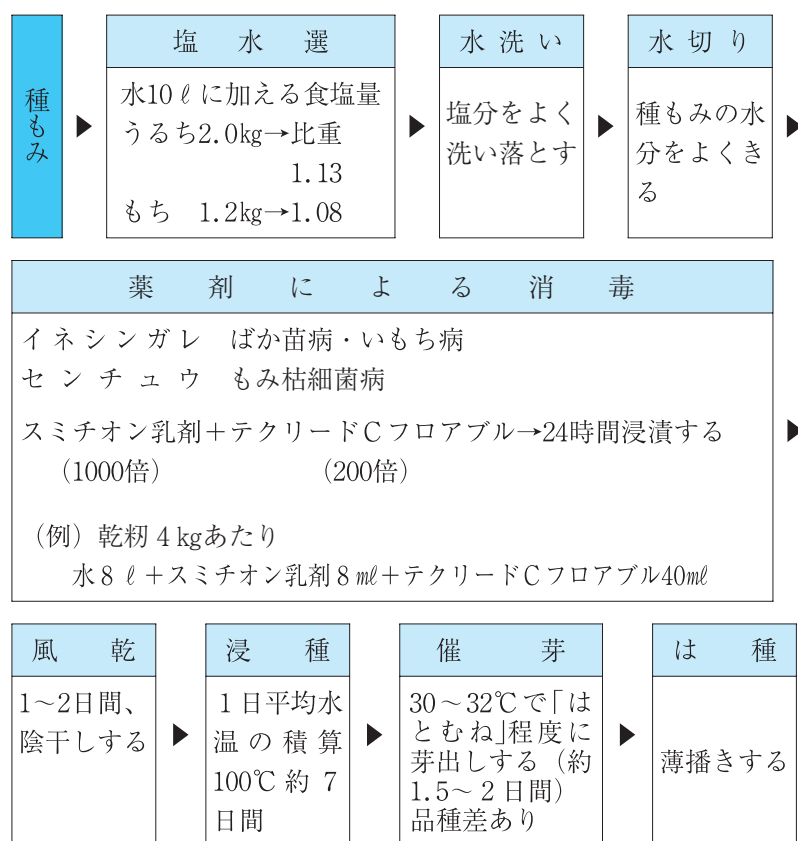
〔 水 稻 の 育 苗 手 順 〕

◎肥料・立枯病予防剤の混入

1. 1箱当たり床土量は約3kg、覆土は箱当たり約0.8～1.0kgです。
2. 1箱当たり細粒8・6・8を15～20g、タチガレエースM粉剤6～8gを床土に混合する。
3. 肥料やタチガレエースM粉剤の床土への混合は、は種1週間以内とする。

◎種子消毒・浸種

1. 種子消毒は、温湯（右下参照）または薬剤による消毒とする。
2. 作業の手順例



◎育苗の作業手順（方法と注意）

稚苗

育苗日数20日、草丈12～13cm、葉数2.2～2.3葉

箱当たり約3kg

床土入れ

かん水

は種直前に、細目のジョロで水分が底までしみ込むように十分かん水する。

は種

は種量は催芽粳で180g（乾粳で150g）、コシヒカリは160g（130g）を均一にまく。

覆土

は種後4mm程度（0.8～1.0kg）に覆土する。覆土後はかん水しない。

出芽

育苗器に通電し、あらかじめ温度を上げておく。

積み重ね方式で出芽させる。

出芽温度 30～32℃ 出芽長 約1cm

出芽日数 2～3日

緑化

育苗器の棚で緑化（またはハウスの中に出芽した育苗箱をならべて緑化）する。直射日光にあてると緑化しなくなる（白化現象）。

緑化温度 昼22～25℃ 夜15～18℃

緑化期間 2～3日

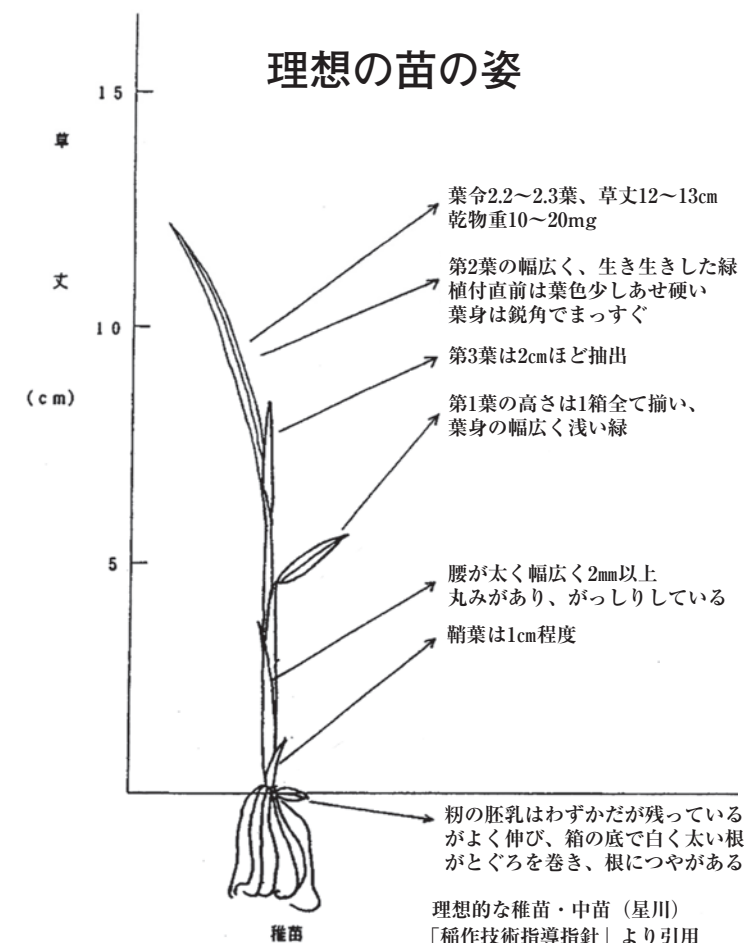
硬化

よく陽にあて、移植が近づけば寒さに慣らす。

硬化温度 昼18～20℃ 夜12～15℃

硬化期間 10～15日

緑化から硬化にかけての水やりは、床土が畑状態にまで乾いたら、たっぷりやります。苗が小さいときは吸う量も少ないのでやりすぎないようにし、午前10時頃に1回やります。



温湯消毒

60～62℃
10分 浸種



冷水

【ポイント】

- ・60～62℃の温湯（乾粳重の20倍以上）と冷水容器を準備する（たっぷりの湯を使うことで種粳を入れたときの温度低下を極力少なくする）。
- ・種粳を60～62℃の温湯に10分間浸けた後、直ちに流水中で冷却する。
- ・冷却後の種粳は、そのまま浸種するか、十分に風乾して保存する（風乾が不十分だと病原菌が増殖する）。
- ・塩水選をする場合は、温湯消毒する直前に行う。
- ・浸種・催芽は温湯消毒後に行う（事前に水に浸けない）。

農薬は、使用前にラベルを十分に熟読し、対象作物、使用量（濃度）、有効期限、使用時期、回数等を確認した上で使用しましょう。

みずかがみの栽培ポイント

適期適量施肥を守り
良食味米生産を心がけましょう。

食味向上のポイント

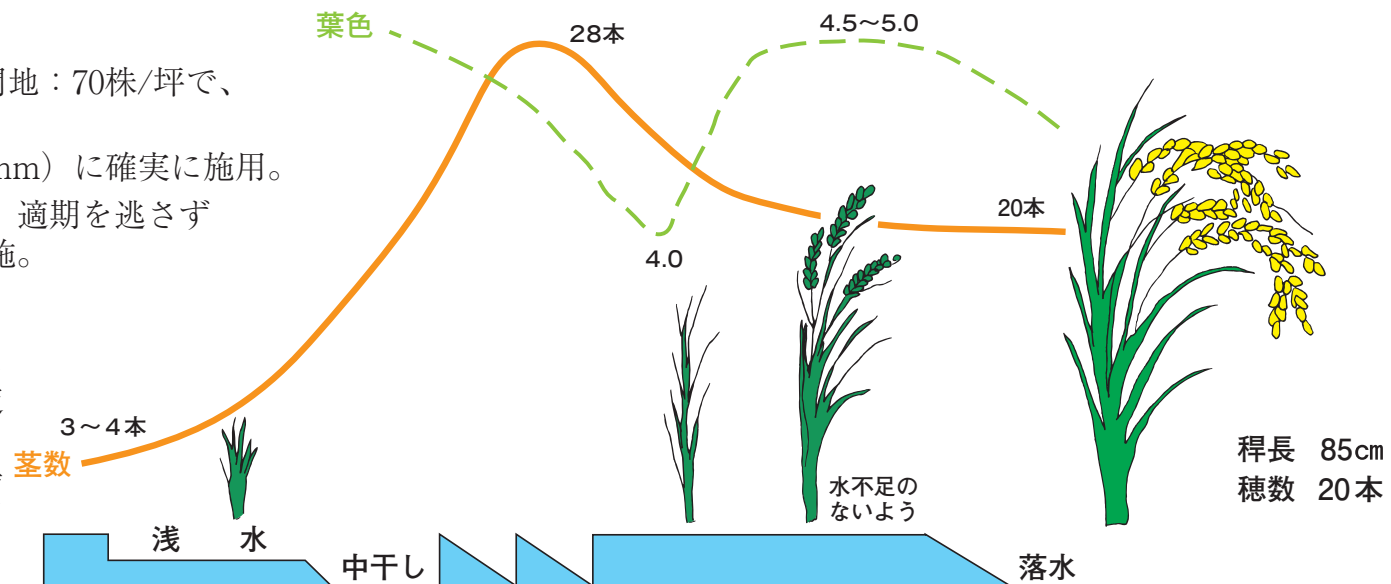
- ① 平坦地：60～70株/坪、中山間地：70株/坪で、3～4本/株の細植え。
- ② 穂肥は出穂25日前（幼穂長1mm）に確実に施用。
- ③ 出穂期、成熟期とも早いため、適期を逃さず穂肥施用、防除、収穫等を実施。

高温対策のポイント

平均気温の上昇、夏季の高温に対応するため追加で穂肥を設定しました。
環境こだわり、特別栽培米の場合は有機アグレット844を施用してください。

施肥タイプ	基 肥		追 肥	肥効調整	穂肥①	穂肥②	
			6月1日～5日頃	6月5日～15日頃	7月1日頃	7月15日頃(出穂10日前～走り穂確認時)	
基本型	28苦土重焼燐 20kg	ここの有機ゆめ80	0kg(なし)	マルチサポート2号 40kg マグエースF 30kg けい酸加里プレミア34 40kg	ここの有機かふか50	有機アグレット844 15～20kg	
転作跡(大豆跡)		ここの有機ゆめ80					20kg
省力型		ここの有機L(エル)					～40kg
一発型		いち太郎70あお					45～50kg

目標等級	1等
目標反収	540kg



3 月			4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下

生育過程	播 種	田 植	有効分けつ決定期	最高分けつ期 6/15～20	幼穂形成期 7/1	出穂期 7/25	収穫期 8/27頃～

- ### 主な作業
- 育苗準備
 - 基肥
 - 細植(二～四本植)
 - イネミズウムシ・いもち病の防除(箱施用)
 - してむれ苗を防止する
 - 育苗中は昼夜の温度管理に注意(二箱あたり催芽もみ一八〇グラム)うすまき
 - 置苗除去
 - イネミズウムシの発生に注意
 - 追肥(6/1～6/5)
 - 溝切り
 - 中干し(50株植 60株植) 21本/株 18本/株
 - 葉いもち防除
 - 紋枯病防除
 - 穂肥①(7/1)
 - 穂肥②(7/15) 走り穂確認時
 - 穂いもち防除(粒剤施用)
 - 穂いもち、カメムシ類防除
 - 登熟期の水管理(田面を白乾させない)
 - 落水期
 - 刈取りは遅れないように
 - 田面が白乾するおそれがあれば走り水を
 - 抑制のため、秋耕を早期実施
 - 稲わら腐熟促進および病害虫発生
 - 牛ふん堆肥等の有機物施用
 - 稲わらすき込み
 - 土づくり肥料を施用
 - 土づくりの徹底

稲の一生

コシヒカリの栽培ポイント

『田植は、5月10日以後に行う。』

温暖化の影響により、夏の高温時期と登熟期が重なり乳白粒の発生による品質低下が拡大しています。田植を遅らせて品質低下を回避しましょう。

倒伏防止ポイント

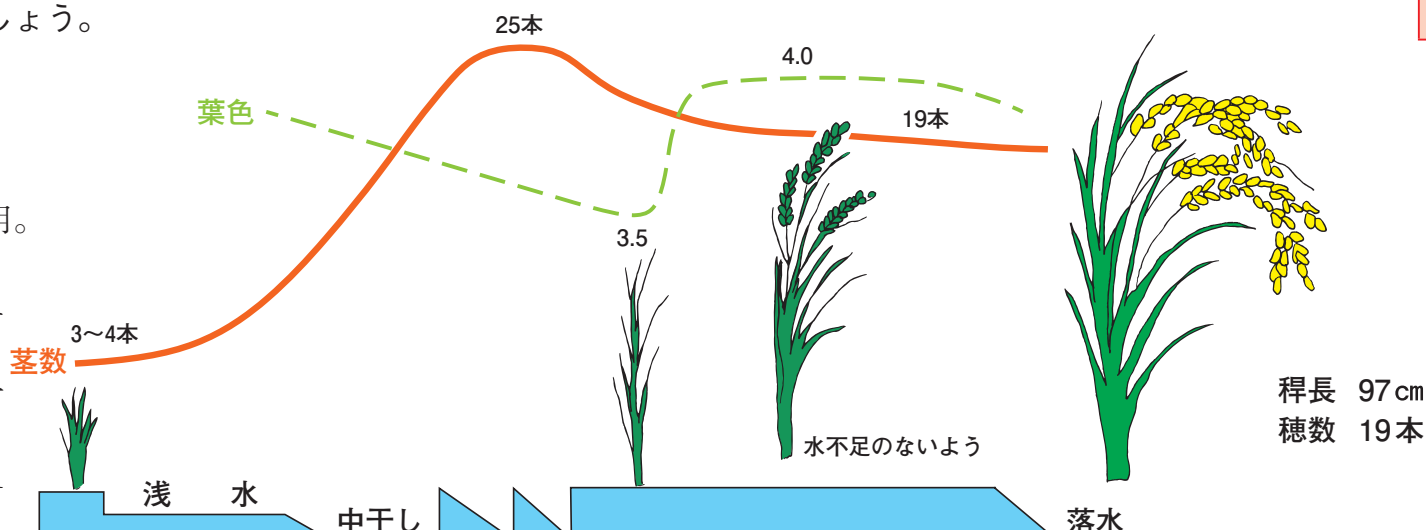
- ① 転作跡の作付けは避ける。
- ② 施肥基準は必ず守る。
- ③ 幼穂10mmを確認してから穂肥を施用。

高温対策のポイント

平均気温の上昇、夏季の高温に対応するため追加で穂肥を設定しました。環境こだわり、特別栽培米の場合は有機アグレット844を施用してください。通常米を栽培の方は、化成肥料201を5～10kg施用してください。

施肥タイプ	基 肥		追 肥	肥効調整	穂肥①	穂肥②	穂肥③
			6月5日～10日頃	6月10日～20日頃	7月13日頃	7月20日頃	走り穂確認時
基本型	28苦土重焼燐 20kg	こうのう有機ゆめ80 20kg	こうのう有機ゆめ80 10kg	マルチサポート2号 40kg マグエースF 30kg けい酸加里プレミア34 40kg	こうのう有機かふか50 15kg <small>(白未熟粒対策)</small> こうのう有機かふか50 10kg	こうのう有機かふか50 10kg <small>(白未熟粒対策)</small> こうのう有機かふか50 15kg	有機アグレット844 15～20kg
転作跡(大豆跡)		こうのう有機ゆめ80 0kg(なし)					
省力型		こうのう有機L(エル) ~35kg	0kg(なし)	0kg(なし)	0kg(なし)		
一発型		いち太郎90あお 45～50kg					

目標等級	1等
目標反収	510kg



3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月～12月					
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			

生育過程

播種	田植	有効分けつ決定期	最高分けつ期	幼穂形成期	出穂期	収穫期
		6/25～30	7/8	8/2	9/3頃～	

主な作業

- 育苗準備
- かん水をしすぎない
- 育苗中は昼夜の温度管理に注意
(一箱あたり催芽もみ一六〇グラム)うすまき
- 基肥
- 細植(一～三本植)
- イネミスゾウムシ・いもち病の防除(箱施用)
- 置苗除去
- イネミスゾウムシの発生に注意
- 中干し(60株植 50株植 2017本/株)
- 溝切り
- 追肥(6/5～6/10)
- 葉いもち防除
- 肥効調整資材の施用
- 紋枯病防除
- 穂肥①(7/13)
- 穂肥②(7/20)
- 穂肥③走り穂確認時
- 穂いもち防除(粒剤施用)
- 登熟期の水管理
- 穂いもち、カメムシ類防除
- (田面を白乾させない)
- 落水期
- 田面が白乾するおそれがあれば走り水を
- 刈取りは遅れないように
- 抑制のため、秋耕を早期実施
- 稲わら腐熟促進および病害虫発生
- 牛ふん堆肥等の有機物施用
- 稲わらすき込み
- 土づくり肥料を施用
- 土づくりの徹底

稲の一生

にじのきらめき 栽培ポイント

施肥タイプ	基 肥			追 肥		肥効調整		穂肥①	穂肥②	
	28重焼燐 20kg	化成肥料 488	30kg	6月10日頃	20kg	6月10日～20日頃	7月4日頃	化成肥料201 20kg	化成肥料201 10kg	
基本型				化成肥料 488	20kg	マルチサポート2号 40kg				
添削型(大豆跡)					15kg	マグエースF 30kg				
省力型				45kg	けい酸加里プレミア34 40kg					
一発型		これいいね (早生用)	45～50kg	0kg(なし)			0kg(なし)	7/13頃化成肥料201 10kg		

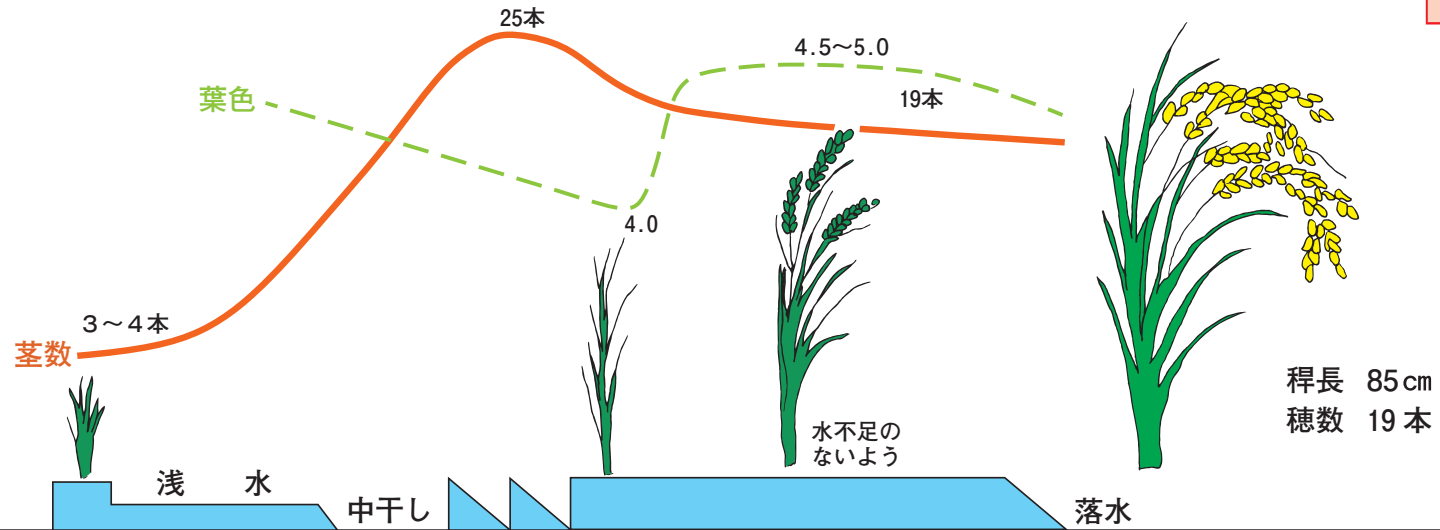
※増収の見込める品種ですので、栽培に関しては化成肥料の使用を推奨します。近年、高温による肥料切れを要因とする収量低下が懸念されますので穂肥は2回に分けて施用してください。環境こだわりで栽培を行う場合、キヌヒカリの施肥量を参考にしてください。

目標等級	1等
目標反収	540kg

『田植えは、5月上旬に行う。』
品質が良く、倒伏に強い品種です。
美味しい品種ですが、増収を目指す場合、穂肥は2回に分けて行いましょう。

品質向上のポイント

- ① 50～60株/坪で2～3本/株のほそ植え。
- ② 中干しによる穂数制限。
- ③ 穂発芽難の品種です。
 - ・ 浸種の積算温度は120℃以上
 - ・ 長めの浸種が必要
 - ・ 浸水時の水温は10℃～15℃で管理



3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月～12月					
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			

生育過程

播種	田植	有効分けつ決定期 最高分けつ期 6/25～30	幼穂形成期 7/4	出穂期 7/29	収穫期 9/7頃～
----	----	-------------------------------	--------------	-------------	--------------

主な作業

- 育苗準備
- かん水をしすぎない
- 育苗中は昼夜の温度管理に注意
(一箱あたり催芽もみ一八〇グラム)うすまき
- 基肥
- 細植(一～三本植)
- イネミズゾウムシ・いもち病の防除(箱施用)
- 置苗除去
- イネミズゾウムシの発生に注意
- 追肥(6/5～6/10)
- 溝切り
- 中干し(60株植 21本/株)
- 葉いもち防除
- 穂肥①(7/4)
- 穂肥②(7/21～26頃)
- 穂いもち防除(粒剤施用)
- 紋枯病防除
- 登熟期の水管理
(田面を白乾させない)
- 穂いもち、カメムシ類防除
(ヨコバイ、ウンカ類の発生に注意)
- 刈取りは遅れないように
田面が白乾するおそれがあれば走り水を落水期
- 抑制のため、秋耕を早期実施
- 稲わら腐熟促進および病害虫発生
- 牛ふん堆肥等の有機物施用
- 稲わらすき込み
- 土づくり肥料を施用
- 土づくりの徹底

キヌヒカリの栽培ポイント

施肥タイプ	基 肥	追 肥		肥効調整	穂肥①	穂肥②	穂肥③
		6月5日～10日頃	6月15日～25日頃	7月6日頃	7月13日頃	7月25日頃(出穂10日前～走り穂確認時)	
基本型	28苦土重焼燐 20kg	ここの有機ゆめ80 20kg	ここの有機ゆめ80 20kg	マルチサポート2号 40kg	ここの有機かふか50 25kg (砂壤土地帯)	——— (砂壤土地帯)	有機アグレット844 15~20kg
転作跡(大豆跡)		ここの有機ゆめ80 0kg(なし)	ここの有機ゆめ80 20kg	マグエースF 30kg			
省力型		ここの有機L(エル) ~35kg	0kg(なし)	けい酸加里プレミア34 40kg	ここの有機ゆめ80 10kg	ここの有機かふか50 20kg	
一発型		いち太郎90あお 45~50kg	0kg(なし)	———	0kg(なし)	———	

『田植は、5月10日以後に行う。』

温暖化の影響により、夏の高温時期と登熟期が重なり乳白粒の発生による品質低下が拡大しています。田植を遅らせて品質低下を回避しましょう。

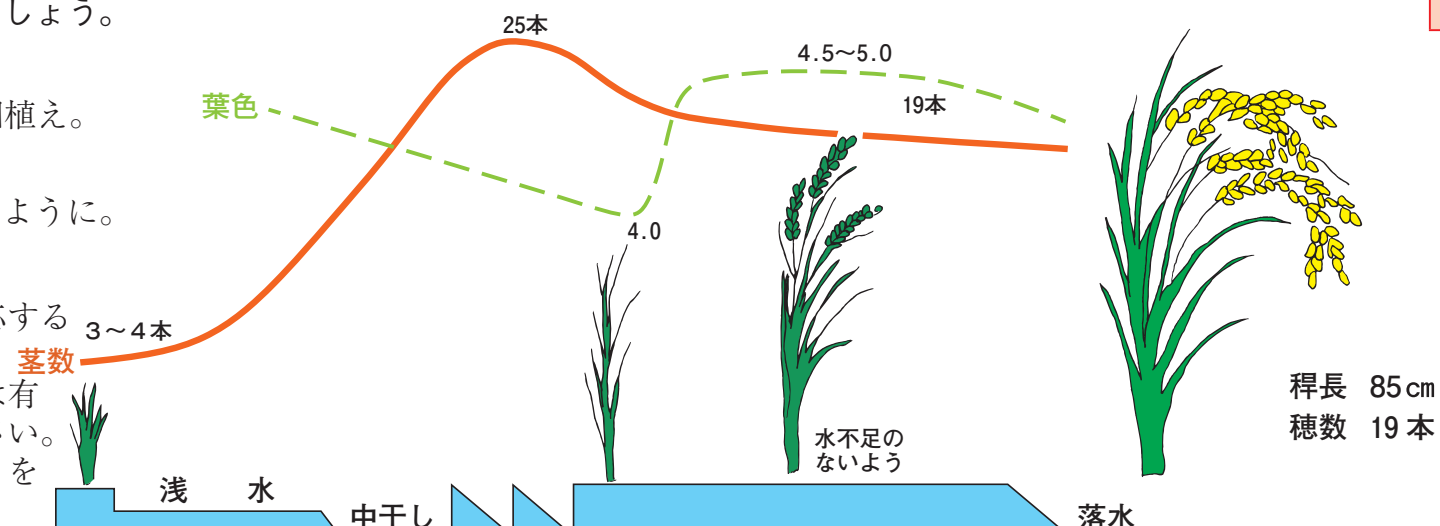
目標等級	1等
目標反収	510kg

食味向上のポイント

- ①50~60株/坪で2~3本/株の細植え。
- ②中干しによる穂数制限。
- ③穂発芽し易いため刈り遅れのないように。

高温対策のポイント

平均気温の上昇、夏季の高温に対応するため追加で穂肥を設定しました。環境こだわり、特別栽培米の場合は有機アグレット844を施用してください。通常米を栽培の方は、化成肥料201を5~10kg施用してください。



3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月~12月					
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			

生育過程	播種	田植	有効分けつ決定期	最高分けつ期	幼穂形成期	出穂期	収穫期
			6/25~30	7/6	8/3	9/4頃~	

- ### 主な作業
- 育苗準備
 - かん水をしすぎない
 - 育苗中は昼夜の温度管理に注意 (一箱あたり催芽もみ一八〇グラム) うすまき
 - 基肥
 - 細植(一~二本植)
 - イネミズゾウムシ・いもち病の防除(箱施用)
 - 置苗除去
 - イネミズゾウムシの発生に注意
 - 追肥(6/5 ~ 6/10)
 - 溝切り
 - 中干し(60株植 21本/株 ~ 18本/株)
 - 葉いもち防除
 - 穂肥①(7/6)
 - 紋枯病防除
 - 穂肥②(7/13) (砂壤土地帯の場合)
 - 穂肥③(7/25)
 - 穂いもち防除(粒剤施用)
 - 登熟期の水管理 (田面を白乾させない)
 - 穂いもち、カメムシ類防除 (ヨコバイ、ウンカ類の発生に注意)
 - 刈取りは遅れないように
 - 田面が白乾するおそれがあれば走り水を落水期
 - 抑制のため、秋耕を早期実施
 - 稲わら腐熟促進および病害虫発生
 - 牛ふん堆肥等の有機物施用
 - 稲わらすき込み
 - 土づくり肥料を施用
 - 土づくりの徹底

稲の一生

きぬむすめの栽培ポイント

施肥タイプ	基 肥		追 肥	肥効調整	穂肥①	穂肥②		
			6月20日頃	6月20日～30日頃	7月15日頃	8月1日～8月5日頃(出穂10日前～走り穂確認時)		
基本型	28苦土重焼燐 20kg	ここのう有機 ゆめ80	20kg	ここのう有機 ゆめ80	20kg	マルチサポート2号 40kg マグエースF 30kg	ここのう有機 かふか50 25kg	有機アグレット844 15～20kg
転作跡(大豆跡)		ここのう有機 ゆめ80	10kg					
省力型		ここのう有機 L(エル)	～35kg	0kg(なし)	けい酸加里プレミア34 40kg	0kg(なし)		
一発型		いち太郎 130あお	45～50kg					

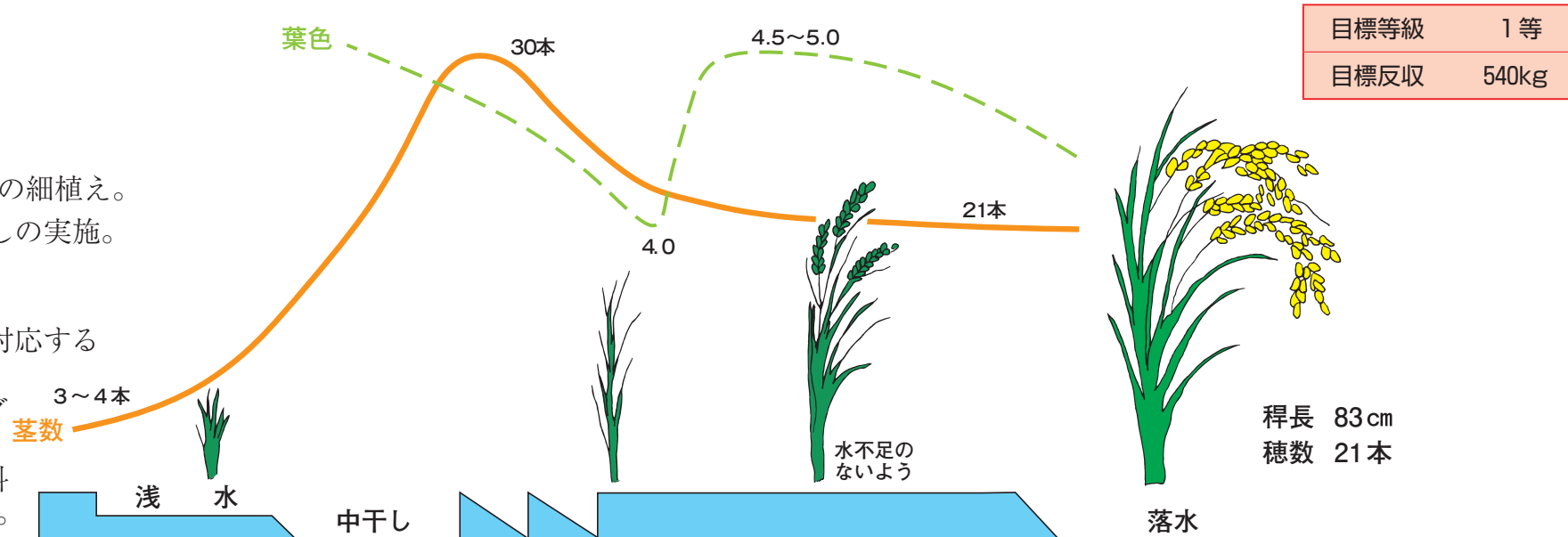
適期適量施肥を守り
良食味米生産を心がけましょう。

食味向上のポイント

- ① 50～60株/坪で2～3本/株の細植え。
- ② 青田を作りすぎず適正な中干しの実施。

高温対策のポイント

平均気温の上昇、夏季の高温に対応するため追加で穂肥を設定しました。
環境こだわりの場合は有機アグレット844を施用してください。
通常米を栽培の方は、化成肥料201を5～10kg施用してください。



目標等級	1等
目標反収	540kg

3 月			4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下

生育過程	播種	田植	有効分けつ決定期	最高分けつ期 6/20～25	幼穂形成期 7/15	出穂期 8/10	収穫期 9/21頃～
------	----	----	----------	-------------------	---------------	-------------	---------------

- 育苗準備
- 育苗中は昼夜の温度管理に注意(一箱あたり催芽もみ一八〇グラム)うすまき
- してむれ苗を防止する
- 基肥
- 細植(一～二本植)
- イネミズゾウムシ・いもち病の防除(箱施用)
- 置苗除去
- イネミズゾウムシの発生に注意
- 追肥(6/20)
- 溝切り
- 中干し(50株植 21本/株)
- 葉いもち防除(60株植 18本/株)
- 紋枯病防除
- 穂肥①(7/15)
- 穂肥②(8/1～8/5)
- 穂いもち防除(粒剤施用)
- 穂いもち、カメムシ類防除
- 登熟期の水管理(田面を白乾させない)
- 刈取りは遅れないように
- 落水期
- 田面が白乾するおそれがあれば走り水を
- 抑制のため、秋耕を早期実施
- 稲わら腐熟促進および病害虫発生
- 牛ふん堆肥等の有機物施用
- 稲わらすき込み
- 土づくり肥料を施用
- 土づくりの徹底

主な作業

きらみずきの栽培ポイント

化学肥料や殺虫・殺菌剤を使用しない栽培

①育苗・移植

- ・温湯消毒は60～62℃で10分間。
- ・温湯消毒後の種子は直ちに浸種するか、十分に風乾して低温低湿度で保管する。
- ・5月10日から20日を中心に移植。
- ・栽植密度は60～70株/坪。

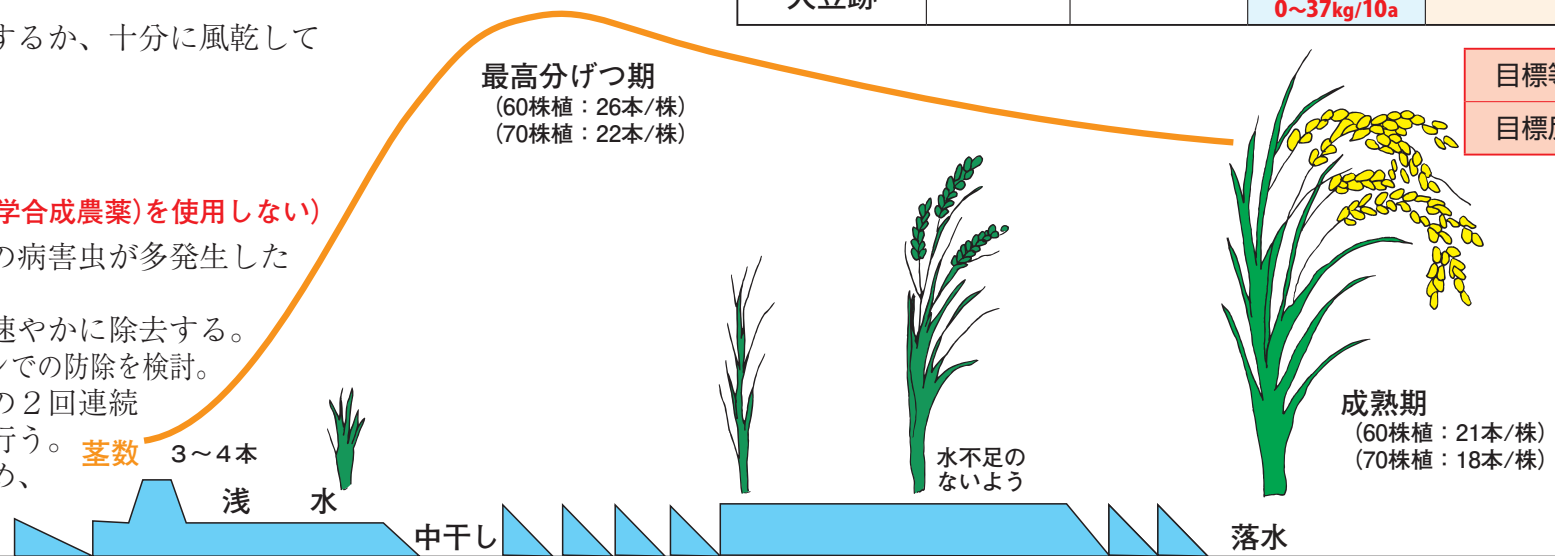
②病虫害対策 (殺虫・殺菌剤(化学合成農薬)を使用しない)

- ・過去にいもち病やウンカ類などの病虫害が多発生した地域・ほ場での栽培は避ける。
- ・いもち病の発生源となる置苗は速やかに除去する。
- ・いもち病の発病を認めたら、カスミンでの防除を検討。
- ・斑点米カメムシ類の対策は畦畔の2回連続草刈りと色彩選別機を利用して行う。
- ・イネ縞葉枯病のまん延を防ぐため、収穫後に早期耕うんを実施する。

③施肥

- ・表の基準量を目安に施用。(右表参照)
- ・側条施肥の場合は6月下旬に葉色が3.8以下に低下したら()内の量を目安に追肥。
- ・穂肥は幼穂形成期(幼穂長1mm)の1週間前(7月上中旬)および、1回目の2週間後を目安に施用。

施肥法	地帯区分	基肥	追肥	穂肥①	穂肥②
			6月28日頃	7月7日頃	7月21日頃
全層	粘質	有機アグレット844 25kg/10a	有機アグレット844 25kg/10a	有機アグレット844 37kg/10a	有機アグレット844 37kg/10a
	砂地	有機アグレット844 37kg/10a			
側条 (施肥田植機)	粘質	有機アグレット844 37kg/10a	※6月下旬に葉色が薄い場合 有機アグレット844 25kg/10a	有機アグレット844 37kg/10a	有機アグレット844 37kg/10a
	砂地	有機アグレット844 50kg/10a			
大豆跡			有機アグレット844 0～37kg/10a		



目標等級	1等
目標反収	510kg

稲の一生

生育過程

主な作業

3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下

播種 5/10～20頃

田植 5/10～20頃

最高分けつ期 6/20～25頃

幼穂形成期 7/14頃

出穂期 8/9頃

収穫期 9/16頃～

- 抑制のため、秋耕を早期実施
- 稲わら腐熟促進および病虫害発生
- 牛ふん堆肥等の有機物施用
- 稲わらすき込み
- 土づくり肥料を施用
- 土づくりの徹底
- 色彩選別機を活用し斑点米を除去
- 1.85mm以上の網目で選別
- 適正な乾燥速度で胴割粒と過乾燥米を防止
- 乾燥時の仕上げ水分は14.5%
- 乾燥調整
- 胴割れに注意
- 刈り遅れに注意
- 初黄化率85%～90%が刈取適期
- 適期収穫
- 田面が白乾するおそれがあれば走水を刈取予定日の5日前まで中断かんがいを実施
- 登熟後半の水管理
- 出穂2～3週間前と出穂期の2回草刈りを徹底
- カメムシ防除のための畦畔2回連続草刈り
- いもち病の発病があれば、カスミンの散布を検討
- いもち病防除
- その2週間後(7月21日頃)に施用
- 幼穂形成期1週間前(7月7日頃)と穂肥施用
- ヒエ等が目立つ場合に中期剤を処理
- 雑草管理
- 窒素成分2kg/10aを基準
- 追肥施用 葉色が低下したら施用
- の8割の茎数で実施
- 溝切り・中干しは目標穂数の溝切り・中干し
- 中干し開始目安 (50株植: 20本/株) (60株植: 17本/株) (70株植: 14本/株)
- 置苗除去
- 除草剤処理後はやや深水で止水管理7日間を徹底
- 基肥は基準量を目安に施用
- 基準の栽培密度で移植
- 移植・施肥
- 温度管理の徹底で徒長と葉焼けを防止
- うす播き
- 健苗の育成
- 病虫害の常発地域を避けて栽培

滋賀羽二重糯の栽培ポイント

栽培のポイント

- ① 苗を伸ばしすぎない。
- ② 健苗細植えて、植えいたみさせない。
- ③ うるちとの混種に注意する。

乾燥のポイント

- ① 張り込みを行う前に、うるち米の混入を防止するため、乾燥機の掃除を十分に行う。
- ② 水分ムラがあると、ハゼ率が低下するため、水分16%で必ず乾燥機を止めて、8～10時間静置してから再度14%を目標に仕上げ乾燥を行う。
- ③ うるち米と同じように、乾燥終了後1日以上以上の放冷を行ってから粳すりを行う。

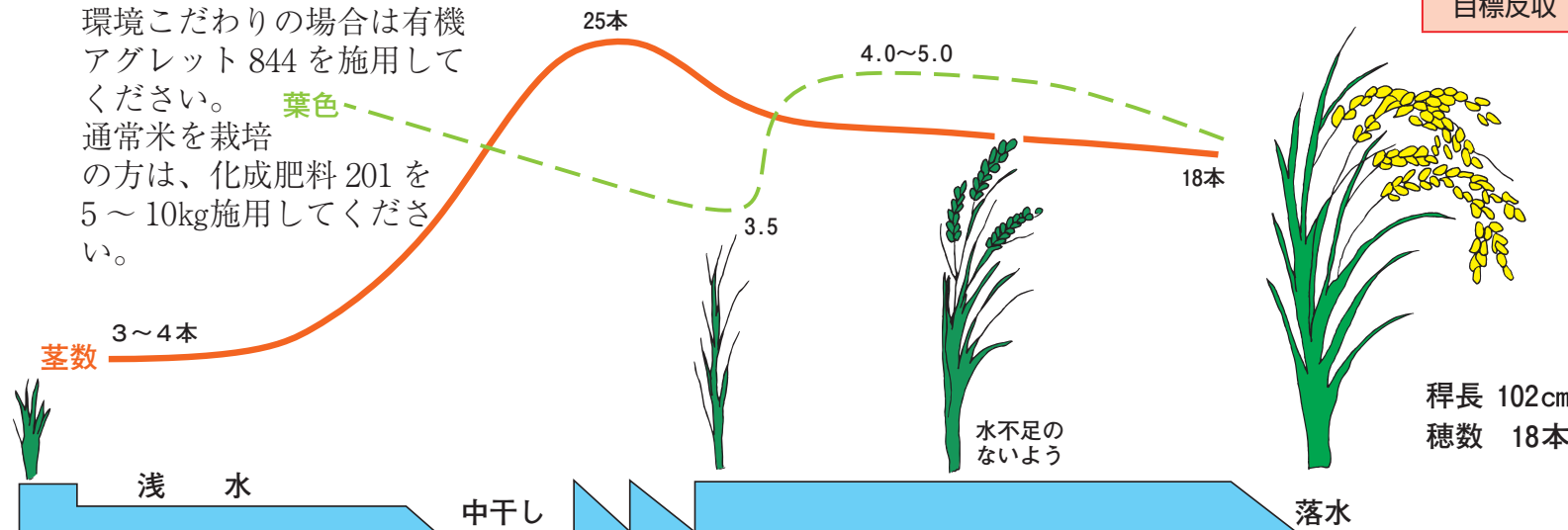
施肥タイプ	基 肥		追 肥	肥効調整	穂肥①	穂肥②	穂肥③
			6月25日頃	6月20日～30日頃	7月25日頃	8月1日頃	8月8日頃走り穂確認時
基本型	28苦土重焼燐 20kg	こうのう有機 ゆめ80 10kg	こうのう有機 ゆめ80 10kg	マルチサポート2号 40kg マグエースF 30kg	こうのう有機 かふか50 15kg	こうのう有機 かふか50 10kg	有機アグレット844 15～20kg
転作跡(大豆跡)		こうのう有機 ゆめ80 0kg(なし)					
施肥田植機		こうのう有機 ゆめ80 ~10kg	0kg(なし)	けい酸加里プレミア34 40kg			

高温対策のポイント

平均気温の上昇、夏季の高温に対応するため追加で穂肥を設定しました。

環境こだわりの場合は有機アグレット844を施用してください。

通常米を栽培の方は、化成肥料201を5～10kg施用してください。



目標等級	1等
目標反収	450kg

稲の一生

生育過程

主な作業

3 月			4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月					
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
播種						田植						有効分けつ決定期			最高分けつ期 6/20～25			幼穂形成期 7/18			出穂期 8/12			収穫期 9/26頃～		

- 育苗準備
- 基肥
かん水をしすぎない
育苗中は昼夜の温度管理に注意
(一箱あたり催芽もみ一八〇グラム)
うすまき
- 細植(一～二本植)
- イネミズゾウムシ・いもち病の防除(箱施用)
- 置苗除去
イネミズゾウムシの発生に注意
- 葉いもち防除
- 肥効調整資材の施用
- 中干し
50株植 60株植 17本/株
20本/株
- 溝切り
追肥(6/25)
- 穂肥①(7/25)
- 穂肥②(8/1)
- 穂肥③(8/8)
- 異品種の抜き取り
- 穂いもち、カメムシ類防除
- 紋枯病防除
- 穂いもち防除(粒剤施用)
- 登熟期の水管理
- 異品種の抜き取り
(田面を白乾させない)
- 落水期
- 刈取りは遅れないように
コンバイン等は使用前掃除(混種注意)
- 田面が白乾するおそれがあれば走り水を
- 抑制のため、秋耕を早期実施
- 稲わら腐熟促進および病害虫発生
- 牛ふん堆肥等の有機物施用
- 稲わらすき込み
- 土づくり肥料を施用
- 土づくりの徹底



(基準品種：びわほなみ)

小麦(びわほなみ)の栽培こよみ

●売れる麦づくりの目標

品質：タンパク含有率9.7%以上
単収：420kg以上／10a

◎集落ぐるみで、集団化とコスト低減をはかろう

月	10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月																																																																									
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																																																																							
生育相	ほ場準備			播種期			出芽期			分けつ期			莖立期			節間伸長期			出穂期			開花期			登熟期			収穫期																																																																						
生育過程				播種 11/5～11/15 			出芽 芽			分けつ 始									出穂 期			開花 期			成収 熟 期			成収 熟 期																																																																						
主な作業	●排水溝つくり ●播種前の排水対策			●土づくり			●種子消毒 ●耕起 ●基肥 ●適期 ●除草剤散布 ●排水溝の再点検			●排水溝の再点検			●穂肥施用			●(茎葉処理剤) 除草剤散布			●排水溝の再点検			●赤かび防除1回目 ●赤かび防除2回目 (多発年では3回目の1回目の7～10日後)			 ●適期収穫																																																																									
栽培作業内容 (資材使用量は10アール当り)	<p>稲の収穫後は、排水溝をつけ、乾田化を促す。稲作期間中に乾田化をはかる。</p> <p>除草剤は播種日に必ず行う。七、五m間隔に排水溝をつける。(やや湿ける地帯では十kgとする。)</p> <p>種子量 条播八、十kg、湿田など発芽が悪い圃場</p>																																																																																																	
	<p>農薬の使用例</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作業名</th> <th>農薬名</th> <th>10aあたり使用量</th> <th>散布時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種子消毒</td> <td>ベンレートTコート</td> <td>乾燥種子重量の0.5%</td> <td>は種前</td> </tr> <tr> <td>除草剤</td> <td>リベレータG(粒剤)</td> <td>4～5kg</td> <td>は種後発芽前</td> </tr> </tbody> </table>						作業名	農薬名	10aあたり使用量	散布時期	種子消毒	ベンレートTコート	乾燥種子重量の0.5%	は種前	除草剤	リベレータG(粒剤)	4～5kg	は種後発芽前	<p>施肥設計例</p> <p><施肥設計> ※元肥と穂肥(莖立期：2月上・中旬)に2回施用することで収量が増加します</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施肥体系</th> <th rowspan="2">土壌改良資材</th> <th rowspan="2">総窒素量 kg(N)</th> <th colspan="2">元肥</th> <th colspan="2">追肥</th> <th colspan="2">穂肥</th> <th colspan="2">実肥</th> </tr> <tr> <th>12月下旬</th> <th>2月上・中旬</th> <th>3月上旬</th> <th>4月下旬</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">増収体系</td> <td rowspan="2">粒状ハレー 28 100kg/10a</td> <td rowspan="2">17.5</td> <td>麦用セラコートR2500 30kg/10a</td> <td>-</td> <td>麦用セラコートR2500 40kg/10a</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>麦用セラコートR2500 30kg/10a</td> <td>-</td> <td>尿素 25kg/10a</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="11">※追肥、実肥の施用により、増収・高品質</td> </tr> </tbody> </table>						施肥体系	土壌改良資材	総窒素量 kg(N)	元肥		追肥		穂肥		実肥		12月下旬	2月上・中旬	3月上旬	4月下旬	増収体系	粒状ハレー 28 100kg/10a	17.5	麦用セラコートR2500 30kg/10a	-	麦用セラコートR2500 40kg/10a	-	-	-	-	-	麦用セラコートR2500 30kg/10a	-	尿素 25kg/10a	-	-	-	※追肥、実肥の施用により、増収・高品質											<p><赤かび病防除></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>防除適期</th> <th>開花始め～開花期</th> <th>1回目散布7日～10日後</th> <th>赤かび病の多発が予想される場合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤名</td> <td>ワークアップフロアブル</td> <td>ミラピスフロアブル</td> <td>ワークアップフロアブル</td> </tr> <tr> <td>使用量</td> <td>散布 2000～3000倍 水60～150ℓ / 10a無人航空機 10～24倍希釈</td> <td>散布 1500～2000倍 水50～150ℓ / 10a無人航空機 8～16倍希釈</td> <td>散布 2000～3000倍 水60～150ℓ / 10a無人航空機 10～24倍希釈</td> </tr> <tr> <td>使用時期</td> <td>収穫7日前まで</td> <td>収穫7日前まで</td> <td>収穫7日前まで</td> </tr> <tr> <td>本剤の総使用回数</td> <td>3回以内</td> <td>2回以内</td> <td>3回以内</td> </tr> </tbody> </table> <p>①近隣の他作物への飛散防止に注意して下さい。 ②赤かび病は、2回目防除が必要です。多発が、予想される場合には3回目防除が必要です。</p>						防除適期	開花始め～開花期	1回目散布7日～10日後	赤かび病の多発が予想される場合	薬剤名	ワークアップフロアブル	ミラピスフロアブル	ワークアップフロアブル	使用量	散布 2000～3000倍 水60～150ℓ / 10a無人航空機 10～24倍希釈	散布 1500～2000倍 水50～150ℓ / 10a無人航空機 8～16倍希釈	散布 2000～3000倍 水60～150ℓ / 10a無人航空機 10～24倍希釈	使用時期	収穫7日前まで	収穫7日前まで	収穫7日前まで	本剤の総使用回数	3回以内	2回以内	3回以内	<p>袋等充分に清掃する。収穫後は、米に混じらないようコンバインで搬入する。刈取後の水分を25%以下で行う。</p>				
作業名	農薬名	10aあたり使用量	散布時期																																																																																															
種子消毒	ベンレートTコート	乾燥種子重量の0.5%	は種前																																																																																															
除草剤	リベレータG(粒剤)	4～5kg	は種後発芽前																																																																																															
施肥体系	土壌改良資材	総窒素量 kg(N)	元肥		追肥		穂肥		実肥																																																																																									
			12月下旬	2月上・中旬	3月上旬	4月下旬																																																																																												
増収体系	粒状ハレー 28 100kg/10a	17.5	麦用セラコートR2500 30kg/10a	-	麦用セラコートR2500 40kg/10a	-	-	-	-	-																																																																																								
			麦用セラコートR2500 30kg/10a	-	尿素 25kg/10a	-	-	-																																																																																										
※追肥、実肥の施用により、増収・高品質																																																																																																		
防除適期	開花始め～開花期	1回目散布7日～10日後	赤かび病の多発が予想される場合																																																																																															
薬剤名	ワークアップフロアブル	ミラピスフロアブル	ワークアップフロアブル																																																																																															
使用量	散布 2000～3000倍 水60～150ℓ / 10a無人航空機 10～24倍希釈	散布 1500～2000倍 水50～150ℓ / 10a無人航空機 8～16倍希釈	散布 2000～3000倍 水60～150ℓ / 10a無人航空機 10～24倍希釈																																																																																															
使用時期	収穫7日前まで	収穫7日前まで	収穫7日前まで																																																																																															
本剤の総使用回数	3回以内	2回以内	3回以内																																																																																															

赤カビ病は必ず開花期と7～10日後に2回防除が必要です。多発が予想される場合は3回目防除が必要です。

高温対策の実践を！



「後期栄養の維持確保」 + 「適正な水管理」

後期栄養の維持確保

- ☀ 地力が低いほ場や籾数過多のほ場では登熟期間の葉色が低下しやすく、登熟不良となり白未熟粒や屑米の増加が懸念されます。
- ☀ 以下の①②の場合、**全量基肥（一発肥料）栽培であっても、出穂11日前（幼穂形成期の14日後）から出穂4日前（早い穂が出始める頃）までに1～2 kg N/10aを追加施用**することで登熟の改善が図れます。

① 葉色が薄い場合。

出穂11日前（幼穂形成期の14日後）までの葉色が、葉色板で4.0（SPAD値36）以下

② 生育が旺盛で籾数過多が予想されるほ場において、葉いもちが発生していない場合。

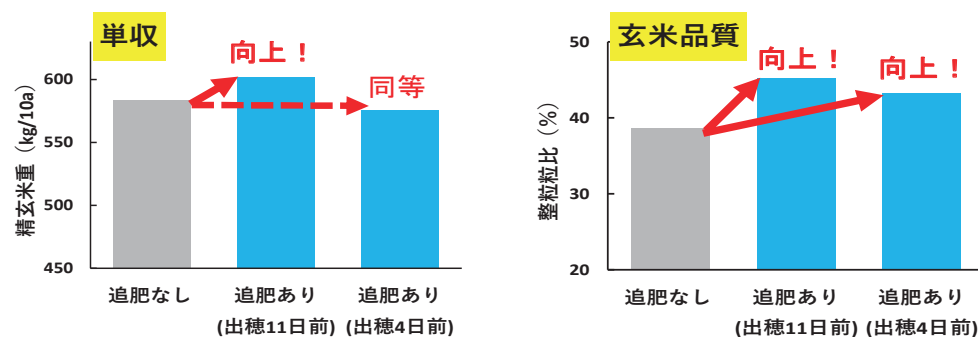
コシヒカリの目安（60株/坪：茎数25本/株以上）
（50株/坪：茎数30本/株以上）



田んぼを確認して考えて見よう！

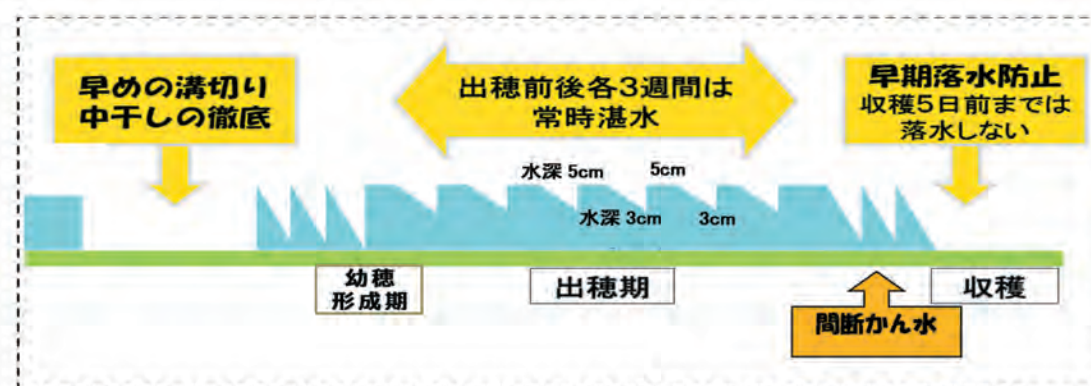
※ 追肥を行う前には必ず自身が栽培している水稻を観察して、倒伏リスクも考慮して追肥を施用するか判断し、食味に影響しないよう施肥の遅れや過剰な施肥に注意してください。環境こだわり栽培の場合は、有機質肥料を使用する等の施肥基準を順守してください。

【参考】全量基肥栽培「コシヒカリ」に対する追肥効果（滋賀農技セ2022～2023年）



適正な水管理

- ☀ 出穂期前後に水が不足すると十分に光合成できず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されるため、**出穂前後各3週間は常時湛水管理**（水深3cm～5cm）を行います。
- ☀ **落水時期**の目安は収穫の5日前ですが、**収穫作業に支障がない限り出来るだけ遅らせ**、根や葉の活力を収穫直前まで維持させます。



【参考】水管理が玄米品質に及ぼす影響

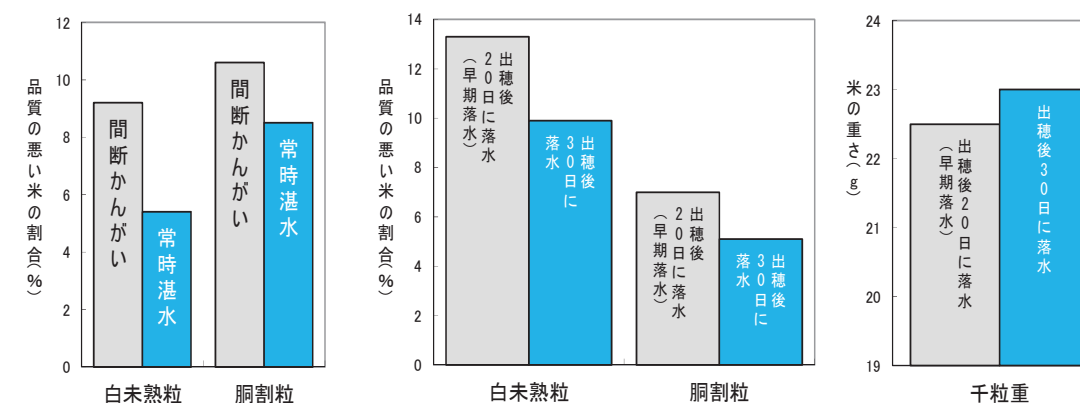


図1 出穂前後の水管理と白未熟粒、胴割粒との関係
(滋賀農技セ 2006年「コシヒカリ」)

図2 落水時期と白未熟粒、胴割粒、千粒重(米の重さ)の関係
(滋賀農試湖北分場2004年「コシヒカリ」)

農作業中の熱中症対策

熱中症を予防しよう

- 毎年、約**30名**が農作業中の熱中症により**死亡**しています

○予防のポイント

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渴きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



○熱中症対策アイテム

身体を冷やす

暑い時間帯の作業等が避けられないときに活躍



ファン付きウェア、ネッククーラー

1人作業の備え

やむを得ず1人作業をする際のリスクを回避したいときに活躍



ウェアラブル端末、応急セット

環境改善

作業場を涼しくしたり、休憩の質を高めたいときに活躍



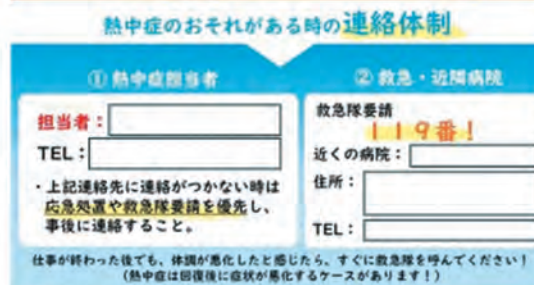
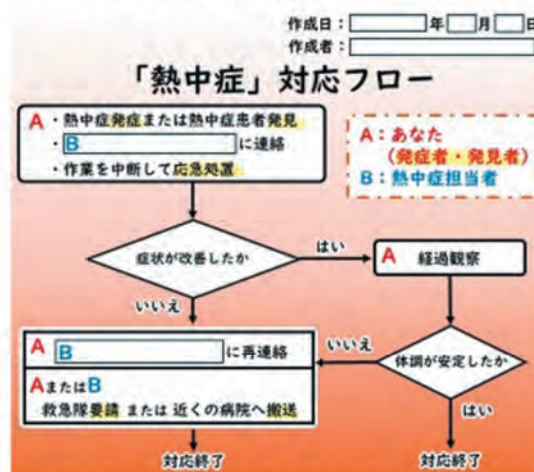
ミストファン
(農水省HPより引用)

重篤化させないために

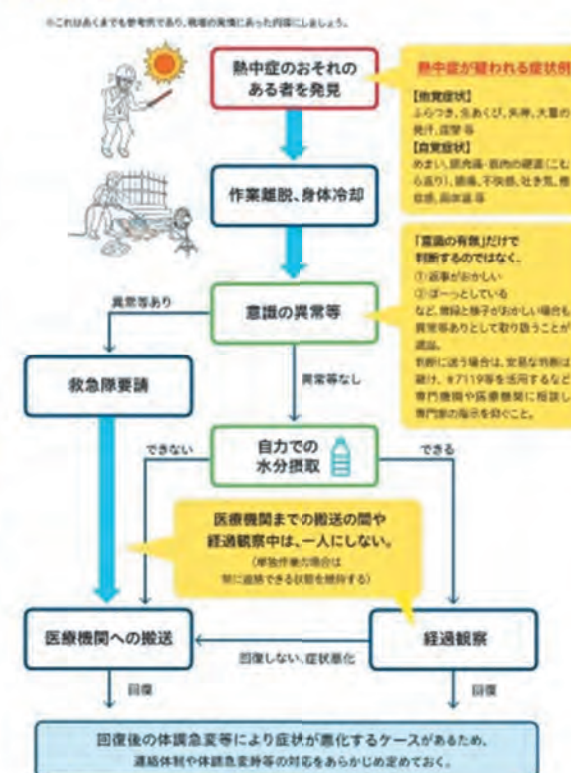
- 屋外作業での熱中症による死亡事例のほとんどが、**初期症状の放置・対応の遅れ**によるものです。
- **重篤化させない(死亡させない)**ためには、現場で適切に処置することが重要で、そのためには事前対策が必要です。

○事前対策のポイント

- ① 熱中症の自覚症状がある人や、熱中症のおそれがある農作業者を
見つけた人が、関係者や家族に迅速に連絡できるよう、**連絡先**を
明らかにしておきましょう。
- ② 近くの病院など**緊急搬送先**を決めておきましょう。
- ③ 応急措置の**実施手順**を決めておきましょう。
- ④ これらに関係者や家族に**周知**しましょう。



連絡体制の周知例(農水省HPより引用)



応急措置のフロー図例(厚生労働省HPより引用)

獣害対策のポイント

獣害対策はひとりが頑張っても集落の被害は減りません。集落ぐるみで取り組むことが大切です。

I 敵を知る、まずはみんなで勉強

知らず知らずに餌付けをしていませんか？

被害が起きる原因のひとつは、集落内に安心して食べられる餌と安全な潜み場所があるからです。

柵で囲っていても被害にあえば餌付けと一緒にです。集落みんなで協力して餌付けをやめることが最も重要な対策です。



放棄されたカキを食べるサル 獣害対策は先ず「集落環境点検」から

守れる集落にしましょう

まずは集落を歩き回って点検をしましょう。被害が起きている現実を確認し、みんな点検することで問題点が見えてきます。集落の弱点を知り、効果的な被害対策を実践するため関係機関とともに考えることが必要です。

集落ぐるみ対策の第一歩「集落環境点検」を実施してください。

II 野生動物を近づけさせない

集落にあるエサをなくそう

野生動物にとっては、農作物はもちろんのこと庭の木に残った果物や畑に捨てた野菜も立派なエサです。野生動物を引き寄せている「集落にあるエサ」をなくしましょう。

潜み場所をなくそう

家や田畑の周りのヤブは、野生動物にとって格好の潜み場所です。ヤブを刈り払い、見通しの良い場所に変えていきましょう。

追い払おう

とくにサルは農作物の生育期だけでなく、見かけたら年中追い払いをしましょう。「人は怖い」と学習させることが必要です。



III 囲って守る

金網柵

ポイント 地際部分は補強を

シカやイノシシは柵を潜って農地に侵入します。柵の下に隙間ができないよう木材や竹で補強が有効です。

ポイント 農作物が見えないよう目隠し

農作物が野生動物に見えないよう防風ネットやトタンなどで目隠しをすると侵入が抑えられます。

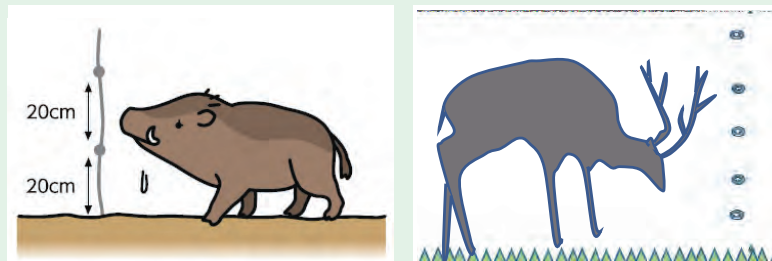
ポイント 定期的な管理を

柵は管理しやすい場所に設置することが基本です。定期的な点検を行い、草刈りや補修を行いましょ。

電気柵

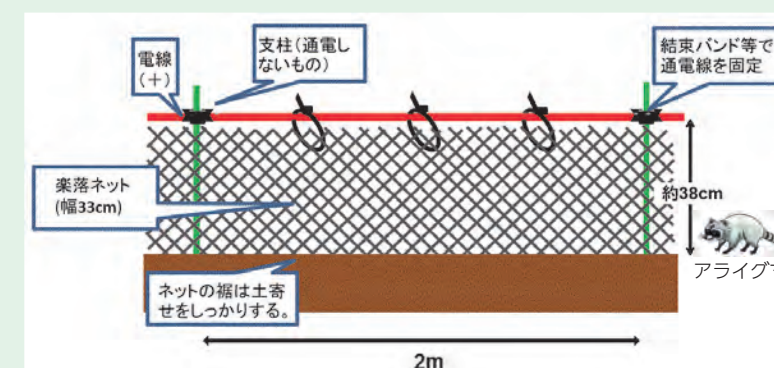
ポイント 動物の鼻の高さに電線を張る

侵入する動物の種類に合わせた鼻の高さに電線を張りましょう。



イノシシは20cm間隔の2段張り

シカは20~150cmまで5段張り



[埼玉県農業技術研究センターより引用]

アライグマなど中型獣は33cmのネットと電線1段張り

ポイント

- 使用しない時期も通電する
- 電圧は定期的にチェックし、5000V以上を確保
- 通電しない舗装道路などから50cm以上離す
- 定期的な草刈りで漏電防止
- ガイシは柵の外側につける

注意

- 家庭のコンセントから直接「柵線」につながると感電や重大な事故につながります
- 家庭用AC100Vの電源を使用する場合、必ず「電気さく用電源装置」を使用し「漏電遮断機」を設置してください。
- 人が見やすい位置に「注意表示板」を設置してください

写真、図は「獣害に強い集落環境点検実施の手引き—滋賀県」、『農林水産省「改訂版 野生鳥獣被害防止マニュアル イノシシ・シカ・サル 実践編」』より引用

獣害対策の相談は下記までご連絡ください。

甲賀農業農村振興事務所農産普及課 電話63-6127

甲賀市林業振興課獣害対策室 電話69-2194

湖南市農林振興課 電話69-5603

野生獣の種類と特徴

名称	足痕	食性	行動	活動時間	生態と主な特徴
アライグマ		雑食	単独	夜間	<ul style="list-style-type: none"> ・山地から平野部まで生息 ・5本指で器用に物をつかめる ・シマシマ模様の長い尾が特徴
ハクビシン		雑食	単独	夜間	<ul style="list-style-type: none"> ・山地から都市部まで広く生息 ・5本指で木登りが得意 ・鼻から額への白い線が特徴
タヌキ		雑食	単独 つがい	夜間	<ul style="list-style-type: none"> ・山地から平野部まで生息 ・4本指で手足が短い、溜糞をする ・ズングリ体型で動きがスロー
アナグマ		雑食	単独	昼・夜	<ul style="list-style-type: none"> ・山地から最近では農村部にも生息 ・5本指で爪が長い、穴掘りが得意 ・タヌキより平べったい体型
ニホンザル		雑食	グループ 単独	昼	<ul style="list-style-type: none"> ・山地から農村部まで群れで行動 ・5本指で、手先が器用で強靱 ・身体能力が高く、木登りが得意
ニホンジカ		草食	グループ 単独	昼・夜	<ul style="list-style-type: none"> ・山地から平野部にも出没 ・二股の蹄でマルチを踏んで破る ・走りが早く、跳躍力に優れる
イノシシ		雑食	単独 親子	昼・夜	<ul style="list-style-type: none"> ・山地から平野部にも出没 ・二股の蹄で、副蹄の痕が付く ・強力な鼻で地面を掘り返す



アライグマ



ハクビシン



タヌキ



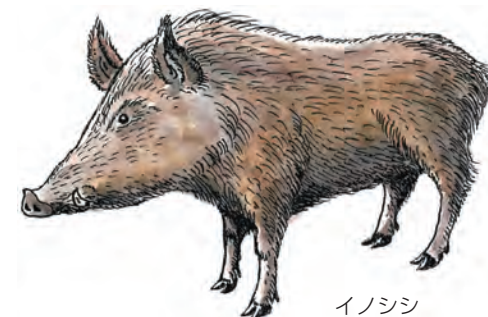
アナグマ



ニホンザル



ニホンジカ



イノシシ

甲賀地域で増加している雑草（水稻・麦・大豆）

水稻

ヒレタゴボウ（アメリカミズキンバイ）



ヒレタゴボウは外来種でアカバナ科チョウジタデ属の一年生雑草です。茎は四稜をもち高さ1m以上になります。一般的に水稻移植後十分に湛水深があればほとんど発生しませんが、田面が露出する中干し期頃から発生してきます。また、浅水や田面が高く露出した部分でも発生し、水稻畦畔、収穫後の田面でも発生がみられます。除草剤対応もありますが、開花してからの薬剤対応は困難で、水稻収穫前に抜き取りが必要となっています。

イボクサ



イボクサはツククサ科イボクサ属の雑草で、露出した田面での発生や畦畔際から茎をのびし水田内に進入しています。繁茂すると水稻が減収し、コンバインに絡まるなど、収穫作業に影響する恐れがあります。除草では、活性の高い白化剤を含む除草剤の使用が望まれます。

麦

ネズミムギ（イタリアンライグラス）



ネズミムギはイネ科の越年生雑草で、特に麦連作ほ場で増加しています。除草剤では有効な茎葉処理剤が無く、土壌処理剤での対応しかありませんが、雑草の発生時期により取りこぼしがどうしても発生します。水稻に戻すと発生量は年々減少します。

大豆

マルバルコウ（帰化アサガオ類）



マルバルコウはヒルガオ科サツマイモ属の一年性植物で、葉は丸みのあるハート型です。雑草は6月～8月頃にかけて、だらだらと発芽します。種が大きく、土中深くからも発芽するため、土壌処理剤の効果は不安定です。1株から約千粒の種が生産され、約3年でほ場全体を覆い、減収や収穫作業の妨げとなります。開花は8月頃から始まります。畦やほ場周辺を観察し、見つけ次第、速やかに除去します。茎葉処理剤の散布が有効です。

病害虫判定シート

水 稲

葉いもち



慢性型病斑 急性型病斑 褐点型病斑 発生2~3日後の病斑 すりこみ症状

紋枯病



病斑部の拡大

ごま葉枯病



白葉枯病



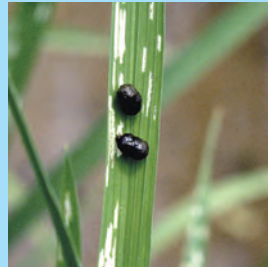
穂いもち



稲こうじ病



イネドロオイムシ
(幼虫4~6mm)



ニカメイガ
(成虫15~16mm)



ニカメイガ
(幼虫1.6~2.6mm)



トゲシラホシカメムシ
(成虫4.5~6mm)



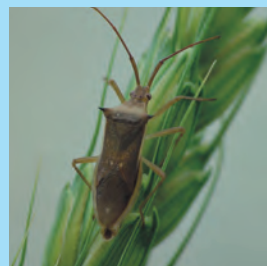
アカスジカスミカメ
(幼虫5~7mm)



クモヘリカメムシ
(幼虫16mm)



ホソハリカメムシ
(幼虫9~11mm)



イネカメムシ
(成虫13mm)

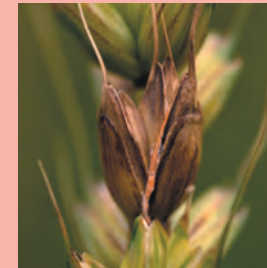


麦

赤かび病



赤かび病 (拡大)
(穎の合わせ目にできた桃色の孢子)



赤かび病被害粒



健全粒 被害粒

黒節病



黒節病 (茎部)
(節の黒変)



黒節病 (穂)
(穂の出すくみと穂焼け症状)



アブラムシ類

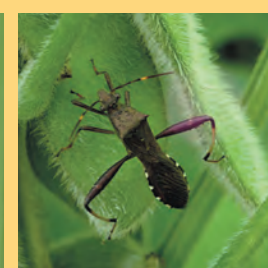


大 豆

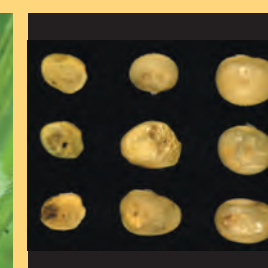
ミナミアオカメムシ



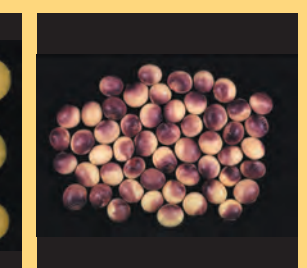
ホソヘリカメムシ



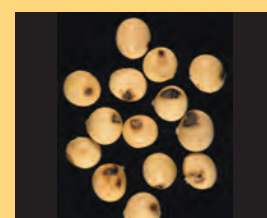
カメムシ類による被害粒



紫斑病 (被害粒)



フタスジヒメハムシに
よる被害粒



ハスモンヨトウ若齢幼虫



ハスモンヨトウ白変葉



画像提供：滋賀県病害虫防除所

農薬はラベルを確認して正しく使いましょう

(種類名) **殺虫剤** 農林水産省登録 第12345号

△△□□水和剤

(商品名) **○ ○ ○ 水和剤**



形状：類白色水和性粉末

成分：△△□□・・・10%
◎◎××・・・25%

500g入

登録番号を確認
(なければ農薬では無い!)

商品名の確認!
成分名の確認!

内容の確認!

- ・作物名
- ・希釈倍数・使用量
- ・収穫前日数
- ・使用回数
- ・総使用回数

注意事項は必ず一読
(特に新しい剤は)

有効期限の確認!
この場合2026年6月までに
使用すること

【適用と使用方法】

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	△△□□を 含む農薬の 総使用回数
なす	アブラムシ類 アザミウマ類 ナメコバエ	1000～ 2000倍	目前まで	3回以内	散布	3回以内
キャベツ	ヨトウムシ	1000倍	目前まで			
レタス	ヨトウムシ	1000～ 1500倍	14日前まで			
だいこん	ヨトウムシ カブラハバチ アオムシ コナガ	1500～ 2000倍	14日前まで	2回以内	散布	2回以内 (播種時の 処理は1回 以内)
トマト	アブラムシ類 マメハモグリバエ	2000倍	7日前まで	3回以内		3回以内
だいず	ハスモンヨトウ アブラムシ類	1000倍	60日前まで	2回以内	散布	2回以内
あずき	フキノメイガ アブラムシ類	1000倍	45日前まで			
かき	カキクダアザミウマ カキノハムシ	1000～	45日前まで	2回以内	2回以内	
つつじ	ツツジガンバイ	1000倍	発生初期	5回以内	5回以内	

ここにはない作物には使えない!

トマトでは、2000倍で散布。使用時期は収穫の7日前までしか使えない。使用回数は、この農薬とこの成分を含む農薬で3回以内まで。

【効果・薬害などの注意】

- * 調製した薬液は、できるだけ早くその日のうちに使用すること。
- * ぼろいしょ・たまねぎに対して希釈倍数300倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した兼用型の地上液剤散布装置を使用すること。
- * 蚕に対して毒性があるので、桑葉にかけられないように注意すること。
- * 本剤はミツバチの訪花・受粉活動に影響を及ぼすことがあるので、ミツバチなどを放飼する場合は使用を避けること。
- * 適用作物群に属する作物又はその新品种に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全対策上の注意】

- * 誤飲・誤食などないように注意すること。
- * 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗い、眼科医の手当てを受けること。
- * 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするなど衣服を交換すること。
- * 作業時に着用していた衣服などは他のものとは分けて洗濯すること。
- * かぶれやすい体質の人は取り扱いに十分注意すること。
- * 本剤は水産動物に影響を及ぼすが、通常の使用方法では問題ない。
- * 直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

希釈倍数 単位は乳剤mL(cc)、水和剤g

希釈倍数	水500mL	水 1 L	水 5 L	水10L
10倍	50	100	500	1000
50倍	10	20	100	200
100倍	5	10	50	100
500倍	1	2	10	20
1000倍	0.5	1	5	10
1500倍	0.33	0.67	3.33	6.67
2000倍	0.25	0.5	2.5	5
3000倍	0.17	0.33	1.67	3.33

最終有効年月(西暦下2けた)
26.06